

平成28年度における業務の実績に関する報告書

(事業年度評価)

平成29年6月30日

地方独立行政法人山口県産業技術センター

## 目 次

### I 法人の概要

- (1) 名称
- (2) 所在地
- (3) 法人成立の年月日
- (4) 設立団体
- (5) 中期目標の期間
- (6) 目的及び業務
- (7) 資本金の額
- (8) 代表者の役職氏名
- (9) 役員及び職員の数
- (10) 組織図

### II 平成 28 年度における業務の実績に関する自己評価結果

- (1) 総合的な評定
- (2) 評価概要
- (3) 対処すべき課題
- (4) 従前の評価結果の活用状況
- (5) 平成 28 年度評価における項目別評価結果総括表

### III 中期計画の各項目ごとの実施状況

- 第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
  - 1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進
    - (1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備
    - (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進
  - 2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進
    - (1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組
    - (2) 研究開発成果の普及とその活用
    - (3) 各種技術研究会活動の積極的展開
    - (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援
    - (5) 数値目標
  - 3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化
    - (1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実
    - (2) 技術相談の充実
    - (3) 新たな技術課題の掘り起こし
    - (4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実
    - (5) 数値目標

### 第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し
- 2 職員の職能開発の計画的実施
- 3 法人サービス業務の「見える化」の推進
- 4 コンプライアンスの確保
- 5 情報管理の徹底
- 6 危機管理対策の推進

### 第 3 財務内容の改善に関する事項

- 1 自己収入の確保
- 2 経費の抑制

### 第 4 その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設設備の適切な管理
- 2 環境負荷の低減

### 第 5 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画

### 第 6 短期借入金 の 限度額

### 第 7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

### 第 8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

### 第 9 剰余金の使途

### 第 10 法第 40 条第 4 項の承認を受けた金額の使途

### IV その他法人の現況に関する事項

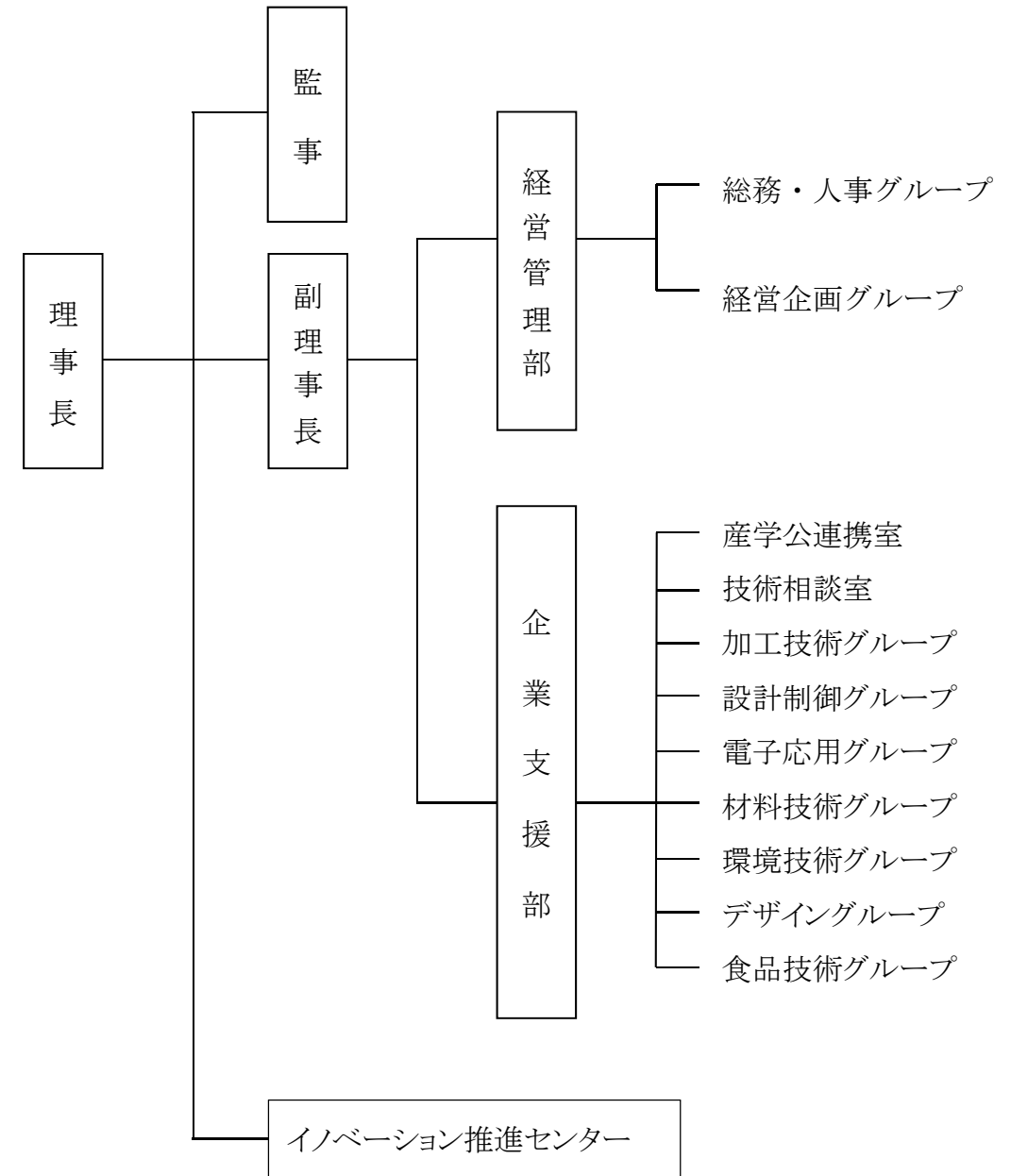
- 1 地域別企業支援状況
- 2 産業分類別企業支援状況
- 3 施設利用
- 4 財務関係
  - (1) 資産、負債
  - (2) 損益計算書
  - (3) キャッシュ・フロー計算書
  - (4) 行政サービス実施コスト計算書
- 5 組織関係
  - (1) 役職員数
  - (2) 役員の状況
- 6 主要な設備等の状況
- 7 その他の評価結果等の活用状況
- 8 その他法人の現況に関する重要事項

**I 法人の概要（平成28年5月1日現在）**

- (1) 名称  
地方独立行政法人山口県産業技術センター
- (2) 所在地  
山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号
- (3) 法人成立の年月日  
H21年4月1日
- (4) 設立団体  
山口県
- (5) 中期目標の期間  
H26年4月1日からH31年3月31日まで
- (6) 目的及び業務  
 ア 目的  
 産業技術に関する試験研究、その成果の普及、産業技術に関する支援等を総合的に行うことにより、産業の振興を図り、もって山口県における経済の発展及び県民生活の向上に資する。  
 イ 業務  
 (イ) 産業技術に関する試験研究を行うこと。  
 (ロ) 産業技術に関する試験研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。  
 (ハ) 産業技術に関する照会及び相談に応じ、並びに助言その他の支援を行うこと。  
 (ニ) 試験研究設備その他の設備及び施設を一般の利用に供すること。  
 (ホ) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
- (7) 資本金の額  
6,375,046千円
- (8) 代表者の役職氏名  
理事長 木村悦博
- (9) 役員及び職員の数  
 ア 役員  
 理事長 1名  
 副理事長 1名  
 監事 1名  
 役員計 3名  
 イ 職員  
 職員(常勤) 48名

職員(非常勤) 25名  
職員計 73名

(10)組織図



## II 平成28年度における業務の実績に関する自己評価結果

### (1) 総合的な評価

【**評価**】 中期計画の進捗は順調 **(A)**

#### 【理由】

大項目別評価の評点平均値に各大項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.7(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.4)であり、「A評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

### (2) 評価概要

#### A 全体的な状況

4つの大項目の内、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」及び「財務内容の改善」に係る中期計画の進捗は順調であり、「業務運営の改善及び効率化」及び「その他業務運営に関する重要事項」に係る中期計画の進捗は概ね順調である。

#### イ 大項目ごとの状況

#### 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

【**評価**】 中期計画の進捗は順調 **(a)**

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.9(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.9)であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」を構成する3つの中項目のうち「戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進」に係る中期計画の進捗は、イノベーション推進センターの体制充実により、その機能を十分に発揮することで提案公募型事業の採択や競争的資金の獲得支援において多数の成果を上げており、順調である。「中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進」では、事業化研究が概ね順調に進み、コーディネータや研究員の活発な企業訪問、3つの研究会における積極的な活動により、技術革新計画の承認支援、国等の提案公募型事業の獲得及び企業の製品化で大きな成果を上げ、順調に進捗している。「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化については、宇宙航空研究開発機構(JAXA)機能の一部移転の受入、水素関連技術支援拠点機能や海外展開支援機能の強化などに取り組むとともに、先端試験研究機器の整備等による技術支援サービスを充実させて開放機器や依頼試験で実績が上回るなど、順調に推移している。

#### 長所及び問題点等

#### 第1-1 地域イノベーションの推進 **a**

(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備については、特にH28度は環境・エネルギー分野において、新たに水素関連技術支援チームを設置し、推進体制を充実した【新】。「環境・エネルギー推進チーム」と「医療関連推進チーム」の2名のプロジェクトプロデューサーを中心に研究テーマ発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援を積極的に推進し、医療関連で初めて医療機器承認(1件)・認証取得(3件)の成果を得た【新】。さらにこれらの取組に対して国から高い評価(A評価)を得た【新】。 **4**

(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進については、イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として企業・大学等訪問による積極的なコーディネート活動を行い、関係機関と連携して国等の提案公募型事業(競争的資金)獲得に向けた積極的な取組により、イノベーション推進センターを中心とした取組で新たに14件、産学公連携室を中心とした取組で新たに11件の競争的資金を獲得した。 **4**

#### 第1-2 ものづくり力の高度化・ブランド化の推進 **a**

(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組については、「技術戦略ー第2期ー[ロードマップ](H27.3策定・刊行)」を企業に広く配布し、法人が取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体を分かりやすく示した。実用化研究では、研究開発(主要8テーマ)が概ね順調に進捗し、そのうち2テーマで事業化され、3テーマで事業化に向けた取組を開始した。また、新製品開発についてはH29年度の「製品開発チーム」創設に向けた検討会を設置した【新】。 **3**

(2) 研究開発成果の普及とその活用については、研究会や研究(技術)発表会の開催、研究報告書等の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。また、研究開発成果を事業化するために、技術移転する企業から資金を得て製品化研究を実施するとともに、研究員等による継続的なフォローアップにより、4件の事業化・商品化実績が上がった。 **3**

知的財産管理では、研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、所内研修や他機関の事業・研修の活用【新】などにより管理の質の向上に努めた。また、審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続を判断するしくみについて、これらに基づく審査の試行結果に基づき、知的財産権に関する手続き等マニュアルを改訂した【新】。 **3**

(3) 研究会活動の積極的展開については、「やまぐちブランド技術研究会」、「新エネルギー研究会」及び「やまぐち3Dものづくり研究会」の3つの研究会活動を積極的に行った。このうち「やまぐちブランド技術研究会」では県内企業の技術革新計画の策定に向けた個別支援により5企業が承認を受け、「新エネルギー研究会」では2社が補助金を活用した事業化への取組を開始し、「やまぐち3Dものづくり研究会」では企業のニーズに基づいた試作により、会員企業での事業化(1件)に結び付いた。また、JAXA機能の一

部移転を県内情報産業の育成に繋げるため、「衛星データ解析技術研究会」を新たに設立した【新】。 4

(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援については、「やまぐちブランド技術研究会」を中心として、企業の技術革新計画の承認支援を行い、年度計画を十分に達成した。加えて、技術革新承認企業に対して、開放機器使用料金の減免措置や新事業創造支援センターの月額使用料金の減免措置を講じる制度を施行した【新】。また、国等の提案公募型事業について多くの採択支援の実績を上げた。 4

(5) 数値目標については、「特許等の出願及び新規使用許諾件数」ではやや未達であったが、その他項目では120%以上の達成率であり、「国等の提案公募型事業の獲得」は年度目標を大きく超えた。

- ・特許等の出願及び新規使用許諾件数 8件（目標11件） 2
- ・山口県技術革新計画の承認支援件数 5件（目標4件） 5
- ・センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 14件（目標6件） 5
- ・研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 10件（目標8件） 5

### 第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化 a

(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実については、産学公金連携セミナーの共同開催や金融機関主催のものづくり補助金の相談会へ職員を派遣する他、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深めて企業支援を行った。また、JAXA機能の一部移転の受入や水素関連技術支援拠点機能強化事業など新たに5件の国・県の緊急的な施策【新】に積極的に取り組んだ。 4

(2) 技術相談の充実については、グループウェアによる1回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に務めた。また、サテライト窓口では、地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。さらに、県内企業の海外展開支援に係る基本方針を定め、外部機関と連携して県内企業の海外展開を支援した【新】。 3

(3) 新たな技術課題の掘り起こしについては、農業・漁業分野で県内事業者や公設試等から課題抽出を行い12テーマの研究開発に反映し、国の提案公募型研究開発事業に5テーマが採択された。また、サービス分野では医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって6件の事業化【新】を達成した。 4

(4) 技術支援サービスの充実については、企業ニーズの調査結果を踏まえ、翌年度の機器導入に反映させるとともに、追加して機器の新規・更新・増設による整備、機器寿命の長期化のための修繕【新】を行い、より一層の充実に努めた。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図るとともに、食品関連企業の利用促進に向けたパンフレットの作成・配布やセミナー・個別相談会を行った【新】。さらに、開放機器や新事業創造支援センターの利用促進を図るため、技術革新承認企業に対する減免措置制度を施行した【新】。 4

(5) 数値目標については、技術相談件数、企業訪問数及び開放機器・依頼試験の利用件数全ての項目で目標を大幅に超え、年度計画を十二分に達成した。

- ・技術相談件数 4,301件（目標3,300件） 5
- ・訪問企業数 532社（目標230社） 5
- ・開放機器・依頼試験の利用件数 4,007件（目標3,040件） 5

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

【評価】 中期計画の進捗は概ね順調 (b)

### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.0（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.0）であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

### 当該大項目内の状況

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」を構成する6つの中項目は、それぞれ概ね順調に実施されている。特に「コンプライアンスの確保」については、労働安全衛生法等に係る管理者・主任者等によるそれぞれの業務の精査や、eラーニングを活用した研究者倫理に関する教育を実施した。

### 長所及び問題点等

### 第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し b

理事長主催の経営委員会及び合同会議（経営委員会＋企業支援委員会）を定期的に開催し、迅速な意志決定を行った。また、経営管理部の事務職員の1名増員【新】と、定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、再任用制度を創設【新】し、H28年度には2名の前年度定年退職者をシニアスタッフとして再任用した。 3

### 第2-2 職員の職能開発の計画的実施 b

研修計画に基づき、外部機関への研修派遣や外部講師を活用した所内研修を実施した。特に、知財については、所内研修や他機関の事業・研修を活用することによって知財管理の質の向上を図った【新】。 3

### 第2-3 法人サービス業務の「見える化」の推進 b

法人サービス業務の「見える化」の推進については、第2期「技術戦略」、開放機器一覧2016など刊行物の発行、成果発表などを計画的に実施した。また、ホームページを積極的に活用し、法人主催のセミナー、成果事例について速やかに周知した。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図るとともに、山口県工業の歴史が学べるコーナーの公開展示及び「山口県工業の沿革年表」の配布【新】やJAXA展示コーナ

一の新設に併せて展示コーナー全体の見直し【新】を行った。 3

#### 第2-4 コンプライアンスの確保 b

コンプライアンスの確保については、職員の法令順守やハラスメント防止などについて周知するとともに、労働安全衛生法等に係る管理者・主任者等によるそれぞれの業務を精査した。また、外部講師による全職員を対象としたハラスメント研修会やeラーニングを活用した研究者倫理に関する教育を実施した。 3

#### 第2-5 情報管理の徹底 b

情報管理の徹底については、新規採用職員を対象に職員教育を実施し、情報セキュリティに対する職員への指示・伝達を行った。また、事務用パーソナルコンピュータのオペレーションシステムをWindows10にアップデート【新】することによりセキュリティ性を向上させた。さらに、コンピュータによる情報漏洩防止の対策強化のため、情報セキュリティ対策チームを立ち上げ、規程・セキュリティポリシーの見直しの方向性を検討した【新】。 3

#### 第2-6 危機管理対策の推進 b

危機管理対策の推進については、災害時の職員・外来者の安否確認方法について周知し、自衛消防訓練に併せて、その検証を行った。 3

### 第3 財務内容の改善に関する事項

評価 中期計画の進捗は順調 (a)

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.6（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5）であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「財務内容の改善に関する事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は順調に進捗している。

#### 長所及び問題点等

#### 第3-1 自己収入の確保 a

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、機器整備で2機種、研究開発で7件の競争的資金を獲得した。また、イノベーションの推進に外部資金を活用す

るとともに、使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料などによる自己収入の確保に努めた。特に、依頼試験の手数料収入が過去最高【新】となり、自己収入増に寄与した。 4

#### 第3-2 経費の抑制 b

予算編成において、事業費の積上と合わせて前年度事業費を勘案して予算配分の減額抑制を図るとともに、より厳格な積算により、厳格かつ効果的な予算配分に努めた。また、上半期終了後の予算執行状況の集計に基づき効果的な予算執行に努めた。さらに、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務、物品購入等における仕様及び旅費等の精査による縮減など比較的規模の小さな経費まで縮減に努めた。 3

### 第4 その他業務運営に関する重要事項

評価 中期計画の進捗は概ね順調 (b)

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値の合計値は3.3（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.3）であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「その他業務運営に関する重要事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は概ね順調に進捗している。

#### 長所及び問題点等

#### 第4-1 施設設備管理 a

施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めるとともに、施設利用者の要望を反映させる仕組みとして利用者アンケートを実施した。また、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配意した。さらに、JAXA展示コーナーを設置し、一定期間、展示コーナーの土日開放を行った【新】。 3

#### (数値目標)

・中期計画期間中の来庁者数 12,713人（目標値11,000人） 4

#### 第4-2 環境負荷の低減 b

環境負荷の低減については、ISO14001に準拠した取組を継続し、省エネ・省資源の取組、廃棄物排出量の削減、グリーン購入等に取り組んだ。電力については、玄関ロビーに設置し

た電力モニターや Web 画面で電力使用量が見える化することにより、省エネ行動喚起を図っている。 **3**

### (3) 対処すべき課題

第 2 期の 4 年目にあたる H29 度は、「中核的技術支援拠点」として、その機能の更なる強化と、H26 年度に策定した第 2 期「技術戦略」の確実な達成に向けて、取組の加速化を図りながら、「地域イノベーションの推進」、「ものづくり技術の高度化・ブランド化」等に寄与する成果を着実に、且つ効果的、効率的にあげていくことを H29 度計画策定の方針とする。

#### 【地域イノベーションの推進】

(戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備)

「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」の地域イノベーションの推進に向けて、「医療関連推進チーム」と「環境・エネルギー推進チーム」に加え、新たに H28 年度に設置した「水素関連技術支援チーム」の 3 つのチームから構成される「イノベーション推進センター」を、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。

さらに、センター研究員や産学公連携室等との連携や文部科学省補助事業などの提案公募事業を活用して、県内企業等のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する。

(産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進)

イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ（研究開発・事業化計画）作成の取り組みの強化を図る。

また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。

#### 【県内企業のものづくり力の高度化・ブランド化】

(事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組)

策定した第 2 期「技術戦略」を、県内企業へ向けて積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。

また、H27 年度に編成した技術グループ横断的な「ものづくりチーム」を、「3D ものづくりチーム」と「製品開発チーム」に再編し、それぞれ「3D ものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究」と「県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発」を実施する。

(研究開発成果の普及とその活用)

研究会や研究（技術）発表会の開催、展示会への出展、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により研究開発成果を県内企

業に発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。

また、成果を移転した企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。

研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。

また、審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続について判断するしくみを本格実施する。

(各種技術研究会活動の積極的展開)

「やまぐちブランド技術研究会」では、講演会や共通課題の勉強会、活動成果の展示会出展などを行うとともに、会員企業それぞれの新たな技術獲得に向けた個別支援を行い、会員企業の「山口県技術革新計画」の承認支援を行う。

「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、これまで取り組んできた活動や実証試験の成果を会員企業の新たなビジネス展開に繋げるよう取り組む。

「やまぐち 3D ものづくり研究会」では、3D プリンターなどを活用した 3D ものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして、会員企業の新技術や新製品の開発を支援する。

H28 年度に設立した「衛星データ解析技術研究会」では、JAXA 西日本衛星防災利用研究センター、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターと連携し、講演会や共通課題の勉強会を開催しながら、会員企業の衛星データへの知識を深めるとともに、様々な産業への利活用方法について検討する。

(研究開発計画策定や資金獲得の支援)

やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援する。

また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得を支援する。

#### 【「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化】

(効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実)

国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化する。また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を行う。

(技術相談の充実)

技術相談の一元化（技術相談室）や遠隔地対策（サテライト窓口、電子メール相談）、巡回企業訪問、巡回相談窓口等をレベルアップさせるとともに、グループウェアによる情報共有（企業・課題・対応）、技術相談室を中心とした相談対応の連携強化により、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。

また、県内企業の海外展開への支援については、H28 年度に定めた基本方針に基づき関係機関と連携して取組を行う。

(新たな技術課題の掘り起こし)

1次産業（農業・漁業）や3次産業（サービス業）の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して、共同研究や、競争的資金の獲得支援等、課題解決に向けた取組を行う。

（先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実）

県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、研究開発の高度化、迅速化に資する機器整備の充実に努めることで、技術支援サービスの充実に図る。

また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査や業務内容の分析等による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。

#### 【業務運営の改善及び効率化】

（運営体制や経営資源配分の継続的見直し）

運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長による迅速な意思決定を行う。

また、全体会議等の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。

さらに、経営管理部の機能を強化し、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。

（職員の職能開発の計画的実施）

研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施する。また、職員の技術開発能力の向上のため、職員が外部から評価を受ける機会を活用する。

（法人サービス業務の「見える化」の推進）

策定した第2期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、ホームページの機能強化、パンフレットの発刊や成果事例集の発刊と充実、成果発表会の開催、県内・県外イベント等でのPR活動、施設見学の誘致等を行う。

（コンプライアンスの確保）

労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育に適宜外部講師を活用する等して、実効性ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

（情報管理の徹底）

個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、新規採用職員を対象とした職員教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。

また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図るとともに、利用者に向けた取組の見える化を図る。

（危機管理対策の推進）

「業務継続計画」（BCP）について、災害を想定した研修又は訓練を実施しながら見直して行くとともに、見直した計画はその都度、職員に周知徹底を図る。

#### 【財務内容の改善】

（自己収入の確保）

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、使用料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進や知的財産権の使用許諾等の推進、施設等の有効利用による収入の確保等による収入の確保に努める。

（経費の抑制）

経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき運用する。

また、一般的な管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。

#### 【その他業務運営に関する重要事項】

（施設設備の適切な管理に関する事項）

施設設備について、利用者の要望や大規模修繕・改修調査を参考にして、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新（計画の作成、実施予算の確保等）、管理システムの運用（開放機器・依頼試験・会議室等予約システム）を行う。

また、施設等の利活用状況を把握し、各種機関や団体、学校等への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。

（環境負荷の低減に関する事項）

省エネルギーや廃棄物の適正な処理等、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。

#### （4）従前の評価結果の活用状況

第2期中期目標の達成に向け、「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に掲げる三つの項目について積極的な取組を進めているが、H26年度とH28年度の「特許等の出願及び新規使用許諾件数」が目標に達しなかった。このため、H29年度以降、製品開発チームの発足などにより実用化を視野に入れた研究開発をさらに促進するとともに、研究成果の速やかな知財化に努めることにしている。

「業務運営の改善及び効率化」や「財務内容の改善」などでは未達成の項目は無く、職能開発や法人サービスの「見える化」、自己収入の確保などで業務改善に取り組んでいる。



(5) H28 年度評価における項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目) (細項目)	中期計画 における 対象細項 目数	年度計画 における 対象細項 目数	細項目別評価の評点内訳 (個数)						細項目別 評価の評 点の平均 値	小項目 別評価 の評点	各小項目のウエイト		中項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目のウエイト		大項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目 のウエイ ト	全体評価 (加重平 均値)
			5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	計			配分	考え方		配分	考え方			
全体評価	34	34	6	11	16	1	0	34	3.6									
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	23	23	6	9	7	1	0	23	3.9									
1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進	2	2	0	2	0	0	0	2	4.0			ウエイト平均	0.4	戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に重点をおいて配分	ウエイト平均 a(4.0)	0.7	ウエイト平均 a(3.9)	単純平均 a(3.9)
(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5							
各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5							
企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0			単純平均 a(4.0)						
2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進	9	9	3	2	3	1	0	9	3.8			「実用化研究への重点的取組」に重点的に配分	0.3	戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に重点をおいて配分	ウエイト平均 a(3.5)	0.7	ウエイト平均 a(3.9)	単純平均 a(3.6)
(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.3							
第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
(2) 研究開発成果の普及とその活用	2	2	0	0	2	0	0	2	3.0	3	0.2							
ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
イ 知的財産の適切な管理	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
(3) 各種技術研究会活動の積極的展開	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
(5) 数値目標	4	4	3	0	0	1	0	4	4.3	4	0.1							
ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数	1	1	0	0	0	1	0	1	2.0									
イ 山口県技術革新計画の承認支援件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化	12	12	3	5	4	0	0	12	3.9			0.3	戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に重点をおいて配分	ウエイト平均 a(4.0)	0.7	ウエイト平均 a(3.9)	単純平均 a(4.0)	
(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
(2) 技術相談の充実	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2							
相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
(3) 新たな技術課題の掘り起こし	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2							
1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
(4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実	6	6	0	3	3	0	0	6	3.5	4	0.2							
機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
ア 開放機器	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
イ 依頼試験	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
ウ 受託研究・共同研究	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
エ 技術者研修	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
オ 新事業創造支援センターの効果的活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
(5) 数値目標	3	3	3	0	0	0	0	3	5.0	5	0.2							
ア 技術相談件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
イ 訪問企業数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									
ウ 開放機器・依頼試験の利用件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0									

第2 業務運営の改善及び効率化	6	6	0	0	6	0	0	6	3.0									
1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0				法人サービスの見える化・人材育成・運営体制に重点的に配分	0.2	b	0.2	0.15	0.15
運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
2 職員の職能開発の計画的実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
3 法人サービス業務の「見える化」の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
第2期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
4 コンプライアンスの確保	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
5 情報管理の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
漏洩防止のために必要な措置の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
6 危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
「業務継続計画」(BCP)の策定	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
第3 財務内容の改善	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5									
1 自己収入の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0			自己収入の確保に重点的に配分	0.6	a	0.6	0.1	0.1	
国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
2 経費の抑制	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
予算の配分や執行管理方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
第4 その他業務運営に関する重要事項	3	3	0	1	2	0	0	3	3.3									
1 施設設備の適切な管理	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5			いずれも重要な取り組みでありウエイトは等分に配分	0.5	a	0.5	0.05	0.05	
保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
数値目標 来庁者数	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0									
2 環境負荷の低減	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									
環境マネジメントの継続実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0									

※小項目がない中項目については、細項目別評価の評点の平均値により評価を行う。

Ⅲ 中期計画の各項目ごとの実施状況

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進

中 期 目 標	<p>&lt;戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に関する目標&gt;</p> <p>全国トップレベルの医療関連産業の集積や、瀬戸内沿岸部の素材・部材の供給基地などの本県産業の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる医療関連産業や環境・エネルギー産業などの戦略産業の育成・集積に資する持続的な地域イノベーション創出環境の整備に資するため、戦略産業分野において、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの研究開発を支援する体制を整備し、産学公や企業間連携による研究開発・事業化を促進する。</p>
------------------	---

第 1 - 1 ( 1 ) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>推進体制</p> <p>県の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」などの戦略産業における次世代産業クラスターの形成に向け、県内でのイノベーションを促進するため、「やまぐちイノベーション推進協議会」等との連携を図りながら、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制をセンター内に構築し、効果的・効率的に運営する。</p>	<p>推進体制</p> <p>「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」の地域イノベーションの推進に向けて、H26 年度に構築した「イノベーション推進センター」を中心とし、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。さらに、文部科学省補助事業である地域イノベーション戦略支援プログラムを引き続き推進する。</p>	4	<p>H26年4月に設置したイノベーション推進センターを中心として、「環境・エネルギー分野」、「医療関連分野」におけるイノベーションを推進するため、産学公金からなる「やまぐちイノベーション推進協議会」での議論を踏まえ、県等と協働して、研究テーマの発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援、展示会出展支援などに取り組んだ。</p> <p>「環境・エネルギー分野」においては文部科学省補助事業である「地域イノベーション戦略支援プログラム」を活用して引き続き取り組むとともに、<u>その取組が文部科学省の中間評価で高い評価（A評価）を得た【新】</u>。また、<u>H28年9月に新たに「水素関連技術支援チーム」を設置すると共に、組織横断的な事業推進体制をとり、県内中小・中堅企業の水素利活用製品や関連部品等の技術開発・試作等に対して支援機能を強化した【新】</u>。</p> <p>「医療関連分野」においては、「ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業」を引き続き活用し、セミナーや本郷展示会の開催により県内企業の医療関連産業への参入を促進するとともに、医療・介護福祉現場と連携したワークショップや医療関係者と中小企業が一堂に会して研究シーズや製品・技術について意見交換を行うシーズ発表会等を開催した。その結果、<u>H28 年度初めて医療機器承認取得 1 件、認証取得 3 件の成果が得られた【新】</u>。</p> <p>また、<u>環境・エネルギーと医療関連の両分野のイノベーションを推進する地域として国から指定を受けている「地域イノベーション戦略推進地域」の中間評価においても高い評価（A 評価）を得た【新】</u>。</p>	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イノベーション戦略推進地域及び地域イノベーション戦略支援プログラム<sub>の</sub>中間評価で国から高い評価（A 評価）【新】</li> <li>・新たに水素関連技術支援チームを設置し、水素関連技術の支援機能を強化【新】</li> <li>・医療機器承認取得 1 件、認証取得 3 件【新】</li> </ul>

地域イノベーション戦略推進地域（4省共管）及び地域イノベーション戦略支援プログラム	補助期間5年間 (H26～H30年度)	総合調整機関：産業技術センター
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業 (全国中小企業団体中央会助成事業)	助成期間3年間 (H27～H29年度)	管理機関：産業技術センター

■イノベーション推進センターの体制

(イノベーション推進センター)

- ・センター長：1名（理事長と兼務）

(環境・エネルギー推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技センター研究員、医療関連推進チームと兼務）
- ・コーディネータ：5名（内1名、産技C研究員と兼務）

(水素関連技術支援チーム) (H28.9～) 【新】

- ・プロジェクトリーダー：1名
- ・事務補助：1名

(医療関連推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技センター研究員、環境・エネルギーチームと兼務）
- ・コーディネータ：2名
- ・事務補助：1名

(事業管理)

- ・事業管理責任者：1名（理事長、センター長と兼務）
- ・事業事務・経理担当：1名
- ・事務経理補助：2名
- ・水素関連技術支援事業管理：責任者1名（経営管理部副部長と兼務）、事業事務担当1名（産技センター研究員と兼務）、補助金関連事務担当5名（産技センター研究員及び事務員と兼務）

■地域イノベーション戦略推進地域及び地域イノベーション戦略支援プログラムの中間評価について  
事業の進捗状況や成果、今後の見通し等について、外部有識者で構成される国の評価検討委員会による評価（自己評価報告書の査読及びヒアリング）を受けた【新】。

○評価結果

地域イノベーション戦略推進地域・・・A評価（S～Cの4段階評価）

地域イノベーション戦略支援プログラム・・・A評価（S～Dの5段階評価）

※総合調整機関の指導力・機動力、コーディネート活動等が高く評価された。

■イノベーション推進センターによる企業訪問

	H26	H27	H28
企業訪問数	117 企業	272 企業	304 企業
述べ訪問回数	239 回	533 回	664 回

■研究会・セミナー・展示会等の開催状況

名 称	場 所	開催日
次世代エネルギー研究会	多目的ホール	6/9
介護・福祉機器の研究開発テーマ発掘ワークショップ	山口グランドホテル	5/27
介護・福祉機器セミナー&開発テーマ報告会	多目的ホール	7/19
山口県企業と医療機器メーカーとの展示・商談会 in 本郷 ○来場者数 約 100 名、○出展企業 21 社、○商談数 41 件 ※ サンプル提供、見積依頼、後日打ち合わせ等の進展 10 件	医療機器会館	10/13
医工連携の推進に向けたシーズ発表会	山口グランドホテル	12/27
水素関連技術マッチングセミナー ※個別商談会件数 12 件	多目的ホール	2/22
介護・福祉機器開発セミナー	ANA クラウンプラザ ホテル宇部	3/3
地域イノベーション戦略支援プログラム成果発表会	山口グランドホテル	3/22

■展示会・商談会等への出展支援

名 称	開催日
関東経済産業局主催第 1 回ものづくり商談会	8/23-25
イノベーション・ジャパン 2016	8/26
医療機器メーカーとの展示・商談会 in 本郷	10/13
HOSPEX2016 (東京ビックサイト)	10/26-28
産業交流展 2016	11/2
第 36 回看護科学学会学術集会	12/10-11
インターネブコンジャパン 2017	1/19-20

■医療機器承認取得 (1 件)【新】 ※承認：新規医療機器

- ・個別化医療に有用な遺伝子対外診断薬システム (12/27)

■医療機器認証取得 (3 件)【新】 ※認証：後発医療機器

- ・次世代フレンチェル眼鏡の開発 (12/20)
- ・新吻合法による安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器の開発と実用化 (12/20)
- ・省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化 (2/14)

■水素関連技術支援拠点機能強化事業【新】

- 技術検討ワーキンググループへの参加・支援(8 グループ)
- 補助金交付:4 企業

第 1 - 1 ( 2 ) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																				
<p>関連機関との連携</p> <p>戦略産業分野における企業間や産学公の連携による研究開発プロジェクトの発掘に取り組むとともに、当該プロジェクトが円滑に実施され、県内中堅・中小企業への波及等につながるよう、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を関係機関と連携しつつ適切に行う。</p>	<p>関連機関との連携</p> <p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ（研究開発・事業化計画）作成の取り組みの強化を図る。</p> <p>また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。</p>	4	<p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として、企業訪問等によるコーディネート活動を積極的に実施し、研究開発から事業化までの計画を策定して、研究開発やものづくり補助金などの競争的資金の獲得支援を数多く実施した。</p> <p>特に、イノベーション推進センターを中心とした取組により、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）など新たに 14 件、産学公連携室を中心とした取組により新たに 11 件の競争的資金に採択された。</p> <p>■イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得支援 34 件（うち新規 14 件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>課題名</th> <th>提案公募事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発</td> <td>H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>めまい診断用次世代フレンツェル眼鏡と眼球運動解析システムの開発と実用化</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療・健康分野における水素応用技術開発</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化</td> <td>H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発と世界展開</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高品位 GaN 基板の開発</td> <td>スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>パワー半導体デバイス向け放熱材料の開発</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>油汚染物の最適処理技術の開発</td> <td>H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>海水濃縮技術を応用した濃度差発電システムおよび海水からの希少資源回収システムの実用化開発</td> <td>H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）</td> </tr> </tbody> </table>		課題名	提案公募事業名	1	個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）	2	めまい診断用次世代フレンツェル眼鏡と眼球運動解析システムの開発と実用化	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	3	医療・健康分野における水素応用技術開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	4	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	5	予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発と世界展開	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	6	再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	7	高品位 GaN 基板の開発	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター	8	世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）	9	パワー半導体デバイス向け放熱材料の開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）	10	油汚染物の最適処理技術の開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）	11	海水濃縮技術を応用した濃度差発電システムおよび海水からの希少資源回収システムの実用化開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーション推進センターを中心とした優れた競争的資金獲得支援実績</li> <li>産学公連携室を中心とした取組による優れた競争的資金獲得実績</li> </ul>
	課題名	提案公募事業名																																						
1	個別化医療に有用な遺伝子体外診断薬システムの研究開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）																																						
2	めまい診断用次世代フレンツェル眼鏡と眼球運動解析システムの開発と実用化	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
3	医療・健康分野における水素応用技術開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
4	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システムの研究開発と事業化	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
5	予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発と世界展開	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
6	再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発および培養システムの確立	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						
7	高品位 GaN 基板の開発	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター																																						
8	世界初 純水素型燃料電池コジェネレーションシステムの開発及び水素需要の拡大	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、大規模枠）																																						
9	パワー半導体デバイス向け放熱材料の開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）																																						
10	油汚染物の最適処理技術の開発	H25 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）																																						
11	海水濃縮技術を応用した濃度差発電システムおよび海水からの希少資源回収システムの実用化開発	H26 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（研究開発・実証試験、一般枠）																																						

				課題名	提案公募名
				12 ガイドラインと顧客ニーズを満たした、耳鼻科向け内視鏡洗浄器の開発	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				13 新吻合法による安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器の開発と実用化	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				14 おいしさを追求したローコストパッケージ型植物工場栽培用LED照明の開発	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				15 太陽光発電を利用した水電解法による高効率水素製造システムの開発及び貯蔵・利用システムの検討	H27 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（大規模枠）
				16 ナノインプリントによる革新的 LED 光取り出し効率改善技術の開発	中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業（NEDO）
				17 幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術による開発	農林水産業・食品産業科学技術推進事業（重要施策対応型）（農林水産省）
				18 ストレスチェック用ウェアラブル形簡易心電図測定評価装置の開発	課題設定型産業技術開発費助成金（NEDO）
				19 下水処理水と海水の塩分濃度差を利用した水素製造システムの実用化に関する調査事業	下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASH プロジェクト)(国土交通省)
				20 水素社会実現を目指したナノ粒子ビルドアップ型光触媒の開発	中国電力技術研究財団【試験研究助成】
				21 IoT を活用した統合的リハビリ支援ソリューション機器の開発【新】	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				22 せん妄リスク・スクリーニング・ウェアラブル看護支援システムの開発【新】	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				23 リチウムイオン二次電池用新規酸化物負極材料の開発【新】	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				24 低純度水素及び低カロリーバイオマス対応コージェネレーションシステム開発【新】	H28 年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）
				25 世界初・八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置の開発【新】	H28 年度戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）
				26 あらゆる状況に歩行補助できる My 地図端末機器の開発【新】	H28 年度課題解決型産業技術開発費助成金（課題解決型福祉用具実用化開発支援事業）（NEDO）
				27 ストレスチェック用ウェアラブル型簡易心電図測定評価装置の開発【新】	H27 年度追加実証・用途開拓研究支援事業～サンプルづくり支援事業～（NEDO）

	課題名	提案公募名
28	患者用ミトンの開発【新】	H28年度やまぐち地域中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《一般枠》)
29	大容量PCRシステムの製品化に向けた研究開発【新】	H28年度やまぐち地域中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《一般枠》)
30	ゴムタイヤの高速かつ省エネ生産を可能にする高安定化不溶性硫黄の高転換率製造方法の開発【新】	H28年度マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」
31	微細藻類を用いた、水産食品工場廃棄物の機能性物質への変換プロセスに関する基盤研究【新】	H28年度マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」
32	高品質AIN結晶基板を用いた最短波長領域高出力深紫外LEDの研究開発【新】	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト(NEDO)
33	循環型二酸化炭素変換を目指した吸着剤-光触媒複合体の開発【新】	JFE21世紀財団2016年度技術研究助成
34	CO <sub>2</sub> 吸着回収と有効成分への化学的変換の両方を実現する新規CO <sub>2</sub> 吸着・変換技術の開発【新】	H29年度新産業創出研究会

※H26年度、H27年度採択事業は、継続審査を受け採択されたもの、H29年度事業については、H28年度内に採択通知を受けたものを記載

■産学公連携室を中心とした取組による獲得 13件(うち新規 11件)

	課題名	提案公募事業名
1	廃棄される印刷用トナーを用いたリン酸系難燃剤開発	マッチングプランナープログラム
2	鯨油の改質と生分解性魚網用塗料への応用	やまぎん地域企業助成基金
3	二次電池電解液向け特殊充填容器と同製法による新事業展開【新】	やまぎん地域企業助成基金
4	電解用活性電極の開発【新】	チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業(戦略産業雇用創造プロジェクト)
5	バブリング用容器試作のための位置決め技術の確立とそれを用いた当該容器の事業化【新】	チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業(戦略産業雇用創造プロジェクト)
6	油吸着剤を用いた油水分離槽の前処理技術の開発【新】	創業・新事業支援助成金【成長支援枠】
7	沿岸イカ釣漁業における漁業技術の革新による操業の効率化【新】	革新的技術開発・緊急展開事業



8	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証【新】	革新的技術開発・緊急展開事業
9	「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略【新】	革新的技術開発・緊急展開事業
10	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発【新】	革新的技術開発・緊急展開事業
11	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のための IT 利用「めきき」技術の開発【新】	革新的技術開発・緊急展開事業
12	ウォラストナイト多孔体の高性能化による用途開発の推進【新】	やまぎん地域企業助成基金(H29年度事業)
13	EMI 測定環境の相関性評価のための疑似試験機の開発と評価法の確立【新】	公益財団法人中国電力技術研究財団(H29-30年度事業)

※H26年度、H27年度採択事業は、継続審査を受け採択されたもの、H29年度事業については、H28年度内に採択通知を受けたものを記載

■ものづくり補助金の計画書作成支援状況 35件（採択件数）

公 募	支援件数	産技センター支援採択件数	採択率
H27年度補正 (H28.4.13 締切)	37件	21件(県全体 84件)	57%(県全体 32%)
H28年度補正 (H29.1.17 締切)	26件	14件(県全体 83件)	54%(県全体 40%)

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進

中期目標	<p>&lt;中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進に関する目標&gt;</p> <p>本県産業を支える中小企業のものづくり力の高度化・ブランド化の推進に資するため、事業化戦略を踏まえた実用化研究に重点的に取り組み、その成果の普及を図るとともに、当該成果を活用した事業化の取組を支援する。</p> <p>また、関係機関との緊密な連携の下、各種技術研究会活動を積極的に展開するとともに、研究開発計画の策定や必要となる資金の獲得を支援し、企業の技術革新の取組を促進する。</p>
------	---

第1-2(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組

中期計画	H28年度の年度計画	評価	H28年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等		
<p>実用化研究への取組</p> <p>企業のニーズや県の産業振興施策の動向を踏まえつつ、事業化を視野に入れた実用化研究に重点的に取り組む。具体的には、第2期「技術戦略」の中で、以下の3つの方向性に沿ってセンターが研究開発を行う技術（重点技術）と当該重点技術ごとの取組方針や実施工程（ロードマップ）を明示し、センターの研究開発を計画的に行う。</p> <p>① 戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <p>② 県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <p>③ 地域の魅力を活かした製品開発のための企画段階からのセンターの参画</p>	<p>実用化研究への取組</p> <p>策定した第2期「技術戦略」を、県内企業へ向けて積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発</li> </ul>	3	<p>技術戦略&lt;第2期&gt;[ロードマップ] (H27.3策定・刊行) を広く配布し、法人が取り組む技術戦略を分かり易く示した。</p> <p>その技術戦略に基づく実用化研究は概ね順調に進み、H28年度に実施した主要な研究開発8テーマ中、2テーマ（3Dものづくり、鯨油）で県内企業により事業化され、3テーマ（ロータリーエンジン、難燃剤、山廃酵母）で県内企業と事業化に向けた取組が始まった。</p> <p>また、新製品の企画開発については、H29年度からの製品開発チームの創設に向けて検討会を設置した【新】。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">研究テーマ（期間）</td> <td>水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発（H28）</td> </tr> </table> <p>進捗状況（90%）</p> <p>試験機の設計に必要なRE制御条件やREコジェネ特性（発電効率や廃熱回収効率）などの詳細データを取得した。さらにその調査結果から、コジェネレーションシステムの基本設計（機器構成、各機器の必要容量、システムの制御概要など）を行った。また、県内企業を中心とした複数企業が補助金を活用して、事業化に向けた取組が開始された。</p>	研究テーマ（期間）	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発（H28）	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2テーマで事業化、3テーマで事業化に向けた取組開始</li> <li>・製品開発チーム創設に向けた検討会の設置【新】</li> </ul>
研究テーマ（期間）	水素及び低カロリーバイオガス対応ロータリーエンジンコジェネレーションシステムの開発（H28）					

	<p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発</li> <li>・鯨油を利用した飼料および塗料の開発</li> <li>・やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発</li> <li>・廃棄される印刷用トナーを用いたリン酸系難燃剤開発</li> <li>・精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開</li> </ul>	<p>②県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1389 283 1605 359">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 283 2718 359">3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1389 359 2718 1003"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt; チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt; 中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1389 1003 1605 1079">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 1003 2718 1079">鯨油を利用した飼料および塗料の開発 (H27-28)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1389 1079 2718 1283"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>鯨油の精製法を改善することで、食用への転用が可能となり、<u>食用鯨油およびそれを用いたクジラオイルドレッシング</u>がそれぞれ県内企業から商品化された【事業化】。塗料用途については、鯨油の粘度を高めるため、無水マレイン酸や有機ケイ素化合物と加熱する手法等を見いだした。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1389 1283 1605 1358">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 1283 2718 1358">やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発 (H27-28)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1389 1358 2718 1562"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>多酸性麴(白麴)を用いて清酒を製造した結果、高酸度の発酵条件下においても酵母の生存率が高く維持されることを確認した。また、同条件下において、やまぐち山廃酵母の酢酸生成量は協会7号酵母に比べて低くなる傾向がみられた。現在、県内酒造会社において、生酏・山廃造りの清酒が製造され、事業化へ向けた取組が開始された。なお、今夏より販売される予定である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1389 1562 1605 1638">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 1562 2718 1638">廃棄される印刷用トナーを用いたリン酸系難燃剤開発 (H27.10-H28.9)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1389 1638 2718 1841"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>建材に利用される樹脂材料(発泡ポリウレタン製の断熱材、防音材等)を難燃化し、着色するためのカラフルな微粉末難燃剤を開発した。県内企業との特許の共同出願準備が整い、試供品の作製を開始し、事業化へ向けた取組が始まった。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期 間)	3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt; チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt; 中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p>		研究テーマ (期 間)	鯨油を利用した飼料および塗料の開発 (H27-28)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>鯨油の精製法を改善することで、食用への転用が可能となり、<u>食用鯨油およびそれを用いたクジラオイルドレッシング</u>がそれぞれ県内企業から商品化された【事業化】。塗料用途については、鯨油の粘度を高めるため、無水マレイン酸や有機ケイ素化合物と加熱する手法等を見いだした。</p>		研究テーマ (期 間)	やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発 (H27-28)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>多酸性麴(白麴)を用いて清酒を製造した結果、高酸度の発酵条件下においても酵母の生存率が高く維持されることを確認した。また、同条件下において、やまぐち山廃酵母の酢酸生成量は協会7号酵母に比べて低くなる傾向がみられた。現在、県内酒造会社において、生酏・山廃造りの清酒が製造され、事業化へ向けた取組が開始された。なお、今夏より販売される予定である。</p>		研究テーマ (期 間)	廃棄される印刷用トナーを用いたリン酸系難燃剤開発 (H27.10-H28.9)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>建材に利用される樹脂材料(発泡ポリウレタン製の断熱材、防音材等)を難燃化し、着色するためのカラフルな微粉末難燃剤を開発した。県内企業との特許の共同出願準備が整い、試供品の作製を開始し、事業化へ向けた取組が始まった。</p>	
研究テーマ (期 間)	3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28)																	
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt; チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt; 中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p>																		
研究テーマ (期 間)	鯨油を利用した飼料および塗料の開発 (H27-28)																	
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>鯨油の精製法を改善することで、食用への転用が可能となり、<u>食用鯨油およびそれを用いたクジラオイルドレッシング</u>がそれぞれ県内企業から商品化された【事業化】。塗料用途については、鯨油の粘度を高めるため、無水マレイン酸や有機ケイ素化合物と加熱する手法等を見いだした。</p>																		
研究テーマ (期 間)	やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発 (H27-28)																	
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>多酸性麴(白麴)を用いて清酒を製造した結果、高酸度の発酵条件下においても酵母の生存率が高く維持されることを確認した。また、同条件下において、やまぐち山廃酵母の酢酸生成量は協会7号酵母に比べて低くなる傾向がみられた。現在、県内酒造会社において、生酏・山廃造りの清酒が製造され、事業化へ向けた取組が開始された。なお、今夏より販売される予定である。</p>																		
研究テーマ (期 間)	廃棄される印刷用トナーを用いたリン酸系難燃剤開発 (H27.10-H28.9)																	
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>建材に利用される樹脂材料(発泡ポリウレタン製の断熱材、防音材等)を難燃化し、着色するためのカラフルな微粉末難燃剤を開発した。県内企業との特許の共同出願準備が整い、試供品の作製を開始し、事業化へ向けた取組が始まった。</p>																		

	<p>③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価</li> <li>・3D 技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発(再掲)</li> <li>・特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発</li> </ul> <p>このうち「3D 技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発」については、H27 年度に編成した技術グループ横断的な「ものづくりチーム」によって引き続き実施する。</p>		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1377 212 1605 327">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 212 2736 327">精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1377 327 2736 548"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の保有する生産設備を用いて、低温焼成(焼成温度:1000℃)にて板状(300×300×15mm)の多孔質セラミックスを試作した。そして、セラミック散気板としての用途展開に向けた曲げ強度や通気率の測定をおこない、本試作品が高強度(曲げ強度:~20MPa)で一定の通気性(通気率:~9.3×10<sup>-14</sup>/m<sup>2</sup>)を有する材料であることが明らかになった。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1377 548 2736 632">③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1377 632 1605 716">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 632 2736 716">乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価 (H28)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1377 716 2736 947"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>乾燥前の糖浸漬処理により、乾燥温度に関係なくモルト様、アーモンド様のメイラード反応に起因する香り成分を付加することが可能であり、その香りの強さは、糖濃度に比例することを確認した。一方、魚臭成分(ペンタナールやヘキサナール等)については、糖濃度に関係なく減少させることができた。さらに、浸漬させる糖濃度により、乾燥物の硬さを調整できることを確認した。今後、商品化に向けた情報提供を行う予定である。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1377 947 1605 1062">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 947 2736 1062">3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28) (再掲 p.17)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1377 1062 2736 1860"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt;</p> <p>中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期 間)	精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の保有する生産設備を用いて、低温焼成(焼成温度:1000℃)にて板状(300×300×15mm)の多孔質セラミックスを試作した。そして、セラミック散気板としての用途展開に向けた曲げ強度や通気率の測定をおこない、本試作品が高強度(曲げ強度:~20MPa)で一定の通気性(通気率:~9.3×10<sup>-14</sup>/m<sup>2</sup>)を有する材料であることが明らかになった。</p>		③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画		研究テーマ (期 間)	乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価 (H28)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>乾燥前の糖浸漬処理により、乾燥温度に関係なくモルト様、アーモンド様のメイラード反応に起因する香り成分を付加することが可能であり、その香りの強さは、糖濃度に比例することを確認した。一方、魚臭成分(ペンタナールやヘキサナール等)については、糖濃度に関係なく減少させることができた。さらに、浸漬させる糖濃度により、乾燥物の硬さを調整できることを確認した。今後、商品化に向けた情報提供を行う予定である。</p>		研究テーマ (期 間)	3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28) (再掲 p.17)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt;</p> <p>中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p>	
研究テーマ (期 間)	精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H28-29)																
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>県内企業の保有する生産設備を用いて、低温焼成(焼成温度:1000℃)にて板状(300×300×15mm)の多孔質セラミックスを試作した。そして、セラミック散気板としての用途展開に向けた曲げ強度や通気率の測定をおこない、本試作品が高強度(曲げ強度:~20MPa)で一定の通気性(通気率:~9.3×10<sup>-14</sup>/m<sup>2</sup>)を有する材料であることが明らかになった。</p>																	
③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画																	
研究テーマ (期 間)	乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価 (H28)																
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>乾燥前の糖浸漬処理により、乾燥温度に関係なくモルト様、アーモンド様のメイラード反応に起因する香り成分を付加することが可能であり、その香りの強さは、糖濃度に比例することを確認した。一方、魚臭成分(ペンタナールやヘキサナール等)については、糖濃度に関係なく減少させることができた。さらに、浸漬させる糖濃度により、乾燥物の硬さを調整できることを確認した。今後、商品化に向けた情報提供を行う予定である。</p>																	
研究テーマ (期 間)	3D技術を活用したものづくり手法の調査研究と新製品の企画開発 (H27-28) (再掲 p.17)																
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>チタン合金を使用したテスト形状の造形を行い、造形の限界値の把握と機械特性を調査した。ニーズに基づく試作については2件実施した。代表例として、新しい冷却水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。また新規材料の造形条件の検討として青銅について検討を実施し、重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。</p> <p>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を3件実施し、1件が事業化された【事業化】。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2件の実施許諾契約を締結した。</p> <p>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt;</p> <p>ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。</p> <p>&lt;新製品企画開発&gt;</p> <p>中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品2例について市場調査、技術検討試作を行った。</p>																	

			<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1377 260 1605 331">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1605 260 2736 331">特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1377 331 2736 617"> <p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産茶葉(冷凍)を用いて小型揉捻機を使用した紅茶の試作を行った。また、試作品について、香りの分析を行った結果、揉捻機を用いた試作品は、手揉捻による試作に比べ、多くの香りを発揚する傾向があった。また、茶葉萎凋時の水分量を変えた試作では、通常よりやや多めの水分量(約70%)を残したものについて、Hexanolや3-Methyl-2-hexanoneと予測される青草様の香りを示す化合物のピークが強く検出された。この結果より、萎凋の程度により、香りの発揚の程度が異なる可能性があることが確認された。</p> </td> </tr> </table> <p>※ 進捗状況については、当該年度目標に対するものである。</p> <p>■ 「製品開発チーム」の創設に向けた検討会の設置【新】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品開発チーム（仮称）創設に向けた検討会を設置（H28年12月）し、産業技術センターが企画から参画する製品開発を県内企業と共同で行う方法やしきみについて検討し、H29年度から技術グループ横断的な「製品開発チーム」を創設することにした。</li> </ul>	研究テーマ (期 間)	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)	<p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産茶葉(冷凍)を用いて小型揉捻機を使用した紅茶の試作を行った。また、試作品について、香りの分析を行った結果、揉捻機を用いた試作品は、手揉捻による試作に比べ、多くの香りを発揚する傾向があった。また、茶葉萎凋時の水分量を変えた試作では、通常よりやや多めの水分量(約70%)を残したものについて、Hexanolや3-Methyl-2-hexanoneと予測される青草様の香りを示す化合物のピークが強く検出された。この結果より、萎凋の程度により、香りの発揚の程度が異なる可能性があることが確認された。</p>	
研究テーマ (期 間)	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発 (H28-29)						
<p>進捗状況 (80%)</p> <p>山口県産茶葉(冷凍)を用いて小型揉捻機を使用した紅茶の試作を行った。また、試作品について、香りの分析を行った結果、揉捻機を用いた試作品は、手揉捻による試作に比べ、多くの香りを発揚する傾向があった。また、茶葉萎凋時の水分量を変えた試作では、通常よりやや多めの水分量(約70%)を残したものについて、Hexanolや3-Methyl-2-hexanoneと予測される青草様の香りを示す化合物のピークが強く検出された。この結果より、萎凋の程度により、香りの発揚の程度が異なる可能性があることが確認された。</p>							

第 1 - 2 ( 2 ) 研究開発成果の普及とその活用

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																														
<p>ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援</p> <p>センターの研究開発成果については、研究会や企業訪問等により県内企業に広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、企業においてセンターの研究開発成果の実用化が滞りなく進捗できるよう、関係職員によるフォローアップを継続的に行う。</p>	<p>ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援</p> <p>研究会や研究（技術）発表会の開催、展示会への出展、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信するとともに、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を、技術移転する企業から資金を得て実施する。</p> <p>また、企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。</p>	3	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。</p> <p>また、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を技術移転する企業から資金を得て実施するとともに、研究担当者やコーディネータがフォローアップのための企業訪問を継続的に行うことにより、4件の事業化・商品化実績があった。</p> <p>■研究開発事業化・商品化実績</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食用鯨油およびドレッシングの商品化支援</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援</td> <td>研究開発</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>DLC 膜製造装置の開発及び用途開発支援</td> <td>研究開発</td> </tr> </table> <p>■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回技術報告会</td> <td>5/24</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」</td> <td>1/30</td> <td>29名</td> </tr> <tr> <td>技術発表会</td> <td>3/14</td> <td>49名</td> </tr> </tbody> </table> <p>■刊行物の発行状況</p> <table border="1"> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略—第2期—</td> <td>500部</td> </tr> </table>	1	3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討	研究開発	2	食用鯨油およびドレッシングの商品化支援	研究開発	3	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	研究開発	4	DLC 膜製造装置の開発及び用途開発支援	研究開発	名称	開催日	参加者数	巡回技術報告会	5/24	33名	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/30	29名	技術発表会	3/14	49名	研究報告書	600部	業務報告書	600部	技術戦略—第2期—	500部	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告書等の刊行、ホームページ、技術発表会等により研究開発成果の積極的発信</li> <li>共同研究・受託研究の実施とフォローアップのための企業訪問</li> <li>4件の事業化・商品化実績</li> </ul>
1	3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討	研究開発																																
2	食用鯨油およびドレッシングの商品化支援	研究開発																																
3	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	研究開発																																
4	DLC 膜製造装置の開発及び用途開発支援	研究開発																																
名称	開催日	参加者数																																
巡回技術報告会	5/24	33名																																
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/30	29名																																
技術発表会	3/14	49名																																
研究報告書	600部																																	
業務報告書	600部																																	
技術戦略—第2期—	500部																																	

			<p>■企業等から資金等を得て実施する共同研究・受託研究の実施状況</p> <table border="1"> <tr> <th>担当グループ</th> <th>共同研究</th> <th>受託研究</th> </tr> <tr> <td>設計制御グループ</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>電子応用グループ</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料技術グループ</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>環境技術グループ</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>デザイングループ</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>食品技術グループ</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>10</td> </tr> </table>	担当グループ	共同研究	受託研究	設計制御グループ		2	電子応用グループ	1		材料技術グループ		4	環境技術グループ	1	1	デザイングループ		1	食品技術グループ	1	2	計	3	10	
担当グループ	共同研究	受託研究																										
設計制御グループ		2																										
電子応用グループ	1																											
材料技術グループ		4																										
環境技術グループ	1	1																										
デザイングループ		1																										
食品技術グループ	1	2																										
計	3	10																										
イ 知的財産の適切な管理	イ 知的財産の適切な管理	3	<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p> <p>また、審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続を判断するしくみの検討・試行結果に基づき、本格実施に向けた準備を行う。</p> <p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p> <p>また、<u>審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続を判断するしくみについて、これらに基づく審査の試行結果に基づき、知的財産権に関する手続き等マニュアルを改訂し、本格実施に向けた準備を行った【新】。</u></p> <p>■知的財産管理</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">H28 年度</th> </tr> <tr> <td>職務発明</td> <td>4 件</td> <td>特許出願</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>審査請求 (内早期)</td> <td>4 件(0 件)</td> <td>特許取得</td> <td>6 件</td> </tr> <tr> <td>新規使用許諾</td> <td>6 件</td> <td>権利の破棄</td> <td>1 件</td> </tr> </table> <p>■所内研修</p> <p>外部講師 (山口大学) を招いて、産技センターの具体的研究テーマを事例に「研究開発における有効な特許調査手法」について2回の研修を行った。</p> <p>■他機関の事業・研修活用【新】</p> <p>&lt;中小企業等特許情報分析活用支援事業 (特許庁委託事業) &gt;</p> <p><u>産技センターの取り組むテーマ (1件) について、標記事業 (申請・採択) を活用して特許情報分析を行った。</u></p> <p>&lt;特許情報検索講習会 (山口大学) &gt;</p> <p><u>研究職や事務職の職員8名を参加させ、参加者全員が山口大学の特許検索インストラクターの資格を授与された。</u></p>	H28 年度				職務発明	4 件	特許出願	2 件	審査請求 (内早期)	4 件(0 件)	特許取得	6 件	新規使用許諾	6 件	権利の破棄	1 件	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権に関する手続き等マニュアルの改訂【新】</li> <li>・所内研修や他機関の事業・研修の活用【新】による知財管理の質の向上</li> </ul>								
H28 年度																												
職務発明	4 件	特許出願	2 件																									
審査請求 (内早期)	4 件(0 件)	特許取得	6 件																									
新規使用許諾	6 件	権利の破棄	1 件																									

第 1 - 2 ( 3 ) 各種技術研究会活動の積極的展開

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																								
研究会活動の積極的展開 ものづくり技術の高度化・ブランド化を推進する「やまぐちブランド技術研究会」や、水素エネルギー活用やスマートファクトリー等を推進する「新エネルギー研究会」など各種技術研究会活動を積極的に展開し、当該研究会会員による研究開発を促進する。	研究会活動の積極的展開 「やまぐちブランド技術研究会」では、技術分科会活動を通じて講演会や共通課題の勉強会、活動成果の展示会出展などを行うとともに、会員企業それぞれの新たな技術獲得に向けた個別支援を行う。また、会員の「山口県技術革新計画」の承認支援を目指した研究会活動と会員単独又は会員共同の技術開発を支援する場としての取組を強化することにより、産学公の連携により、高度技術産業において、県内企業のものづくり基盤技術の高度化、ブランド化の促進を目指す。 「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を利活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、研究会活動や実証試験を継続して行うとともに、分科会で参画企業が新たなビジネスチャンスを発掘できるよう、オープンイノベーションによる研究会活動とこれまで取り組んだ研究成果を事業化に繋げるため、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用を目指す。 H26 年度に設立した「やまぐち 3D ものづくり研究会」では、3D プリンターなどを活用した 3D ものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして本県の資源や魅力を活かした新製品の企画や試作を行う。	4	それぞれ研究会の会員企業への技術支援を継続することにより、「やまぐちブランド技術研究会」では県内企業の技術革新計画の策定に向けた個別支援により 5 企業で承認を受け、「新エネルギー研究会」では会員企業 2 社が補助金を活用して事業化へ向けた取組を開始し、「やまぐち 3D ものづくり研究会」では企業のニーズに基づいた試作により <u>会員企業で 1 件の事業化が達成された【事業化】</u> （再掲 p.17）。また、 <u>宇宙航空研究開発機構（JAXA）の一部機能移転を産業振興に繋げるため、「衛星データ解析技術研究会」を新たに設立した【新】</u> 。  ①やまぐちブランド技術研究会（会員数 183 企業181 その他機関 2（H29.3末時点） 「やまぐちブランド技術研究会」では、引き続き、分科会等の研究会活動や県の事業を活用した研究等を通じた支援を行うとともに、「新たなものづくりへの挑戦」に向けた県の支援制度である技術革新計画の承認に向けた支援を行い、支援した5件全てで承認される結果となった。また、技術支援の製品化事例を展示会へ出展した。  ■研究会・分科会の開催 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐちブランド技術研究会</td> <td>11/22</td> </tr> <tr> <td>精密加工技術分科会</td> <td>3/10</td> </tr> <tr> <td>表面改質・湿式表面処理技術分科会</td> <td>11/18,3/9</td> </tr> <tr> <td>化学リサイクルチーム</td> <td>9/28,11/15-16</td> </tr> <tr> <td>無機系廃棄物等リサイクルチーム</td> <td>12/5</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム技術分科会</td> <td>5/17,7/27,9/7,10/11,1/31,2/28,3/21</td> </tr> </tbody> </table> ■技術革新計画の策定支援 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>研究会名</th> <th>承認数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物リサイクル技術分科会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>精密加工技術分科会</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>熱流体工学分科会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム技術分科会</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	内 容	開催日	やまぐちブランド技術研究会	11/22	精密加工技術分科会	3/10	表面改質・湿式表面処理技術分科会	11/18,3/9	化学リサイクルチーム	9/28,11/15-16	無機系廃棄物等リサイクルチーム	12/5	組込みシステム技術分科会	5/17,7/27,9/7,10/11,1/31,2/28,3/21	研究会名	承認数	廃棄物リサイクル技術分科会	1	精密加工技術分科会	3	熱流体工学分科会	1	組込みシステム技術分科会		年度計画を十分達成 <ul style="list-style-type: none"> <li>やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会活動による継続的支援（技術革新計画承認 5 企業、展示会への出展）</li> <li>3D ものづくり研究会の積極的活動による事業化 1 件</li> <li>衛星データ解析技術研究会の設立【新】</li> </ul>
内 容	開催日																											
やまぐちブランド技術研究会	11/22																											
精密加工技術分科会	3/10																											
表面改質・湿式表面処理技術分科会	11/18,3/9																											
化学リサイクルチーム	9/28,11/15-16																											
無機系廃棄物等リサイクルチーム	12/5																											
組込みシステム技術分科会	5/17,7/27,9/7,10/11,1/31,2/28,3/21																											
研究会名	承認数																											
廃棄物リサイクル技術分科会	1																											
精密加工技術分科会	3																											
熱流体工学分科会	1																											
組込みシステム技術分科会																												



■展示会への出展（やまぐちブランド技術研究会関係）

展示会等の名称	場所	展示内容	日程
新価値創造展 2016(中小企業総合展)	東京ビッグサイト	技術支援の製品化事例 2 企業 ・ブース来場者：199 名 ・商談件数：21 件（名刺を受領し、相談した件数） ・取引成立件数：1 件	10/31-11/2

②新エネルギー研究会（会員数 59 企業 57 その他機関 2（H29.3末時点））

新エネルギー研究会及び二つの分科会を開催し、県内企業の参画により試作開発や実証実験を行うとともに、会員企業による事業化に向けた取組を行った。

■分科会活動

分科会名	取組内容
水素・再生可能エネルギー利用分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RE コージェネレーションシステム WG において、県内企業を代表とした複数企業により、<u>H28 年度次世代産業育成チャレンジアップ事業に申請し、採択された【新】</u>。</li> <li>・高性能断熱容器の提案を目指して、断熱容器の技術的検証を引き続き行った。</li> <li>・H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を引き続き行った。</li> </ul>
スマートファクトリー分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル工場におけるエネルギー監視の継続。</li> <li>・分科会会員であるモデル工場においてもものづくり補助金を活用して「エネルギー使用の合理化」に着手した。</li> </ul>

■研究会・分科会の開催状況

名 称	開催日
新エネルギー研究会	7/14
水素・再生可能エネルギー利用分科会（ワーキンググループ会議含む）	4/26,6/17,10/6,11/11,12/9,1/20,2/13,2/17
スマートファクトリー分科会	7/14, 3/30

③やまぐち 3D ものづくり研究会（会員数 73 企業 64 その他機関 9（H29.3 末時点））  
やまぐち 3D ものづくり研究会会員に対して、積極的に企業訪問を行い、ニーズに基づいた試作、事例研究等を実施し、下記の結果の通りの実績を上げた。

**【実績】**

<金属 3D プリンター>

- ・ニーズに基づく試作については 2 件実施した。代表例として、新しい冷却水水路を有する金型において必要な部分のみ造形する事でコストを抑えることができるハイブリッド造形の実用性を確認した。
- ・新規材料として青銅を用いた重要文化財のレプリカ製作技術を蓄積した。

<樹脂系 3D プリンター>

- ・ニーズに基づく高度な活用事例を 3 件実施し、1 件が事業化された【事業化】（再掲 p.17）。また、重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。2 件の実施許諾契約を締結した。

<3D ものづくり手法>

- ・ニーズに基づく高度な活用事例を 2 件実施した。代表例として重要文化財のレプリカ製作に必要なリバースエンジニアリング技術の蓄積を行った。

<新製品企画開発>

- ・中小企業における事業化の観点から、ニッチな製品 2 例について市場調査、技術検討試作を行った。

■研究会

名 称	日程
やまぐち 3D ものづくり研究会	1/27

④衛星データ解析技術研究会【新】（会員数 29 企業 21 その他機関 8（H29.3 末時点））

JAXA 機能の一部移転を県内情報産業の育成に繋げるため、衛星データ解析技術研究会を設立し（2/23）、研究会活動を開始した。

名 称	場 所	開催日
衛星データ解析技術研究会設立講演会	多目的ホール	2/23
第 1 回衛星データ解析技術研究会	多目的ホール	3/13

第 1 - 2 ( 4 ) 研究開発計画策定や資金獲得の支援

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																	
<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>県内企業（企業間連携を含む）の技術に対する「強い思い」を新事業展開につなげるために、県の技術革新計画制度等を活用しつつ、研究開発計画の策定や、国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得を支援する。</p>	<p>国等の提案公募型事業獲得支援</p> <p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)策定を支援する。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業(競争的資金)の獲得を支援する。</p>	4	<p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援した。その結果、県の技術革新計画に支援した5件がすべて承認された。</p> <p>更に、<u>技術革新計画を承認された企業に対して、開放機器の使用料金の減免措置、新事業支援センターの月額使用料金の減免措置を講じる制度を新たに施行した（4/1～）【新】</u>。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得に向けて積極的に支援を行い、ものづくり補助金事業では35件が採択された。</p> <p>■やまぐちブランド技術研究会による技術革新計画支援状況</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発</td> <td>(有)アセンティー 廃棄物リサイクル分科会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発</td> <td>シンテック(株) 熱流体工学技術分科会、組込みシステム技術分科会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発</td> <td>(株)アルジュジャパン 精密加工技術分科会</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化</td> <td>(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>廃棄されている鯨油の産業利用</td> <td>(株)吉田総合テクノ 精密加工技術分科会</td> </tr> </table> <p>■開放機器の使用料金の減免措置、新事業支援センターの月額使用料金の減免措置【新】</p> <table border="1"> <tr> <td>開放機器使用料減免措置</td> <td>2 件</td> </tr> <tr> <td>新事業支援センター月額使用料減免措置</td> <td>1 件</td> </tr> </table> <p>■国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得支援状況（詳細はp.12～p.15参照）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得</td> <td>34 件</td> </tr> <tr> <td>産学公連携室を中心とした取組による獲得</td> <td>13 件</td> </tr> <tr> <td>ものづくり補助金の計画書作成支援による採択</td> <td>35 件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>■上記以外</p> <table border="1"> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業</td> <td>1 件</td> </tr> </table>	1	油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発	(有)アセンティー 廃棄物リサイクル分科会	2	自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発	シンテック(株) 熱流体工学技術分科会、組込みシステム技術分科会	3	3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発	(株)アルジュジャパン 精密加工技術分科会	4	各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化	(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会	5	廃棄されている鯨油の産業利用	(株)吉田総合テクノ 精密加工技術分科会	開放機器使用料減免措置	2 件	新事業支援センター月額使用料減免措置	1 件	項 目	件数	イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得	34 件	産学公連携室を中心とした取組による獲得	13 件	ものづくり補助金の計画書作成支援による採択	35 件	計	82 件	地域イノベーション戦略支援プログラム	1 件	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1 件	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の技術革新計画の承認支援(5 件)</li> <li>技術革新計画承認企業の開放機器の使用料金減免措置、支援センターの月額使用料減免措置制度の施行【新】</li> <li>国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得（84 件）の積極的支援</li> </ul>
1	油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発	(有)アセンティー 廃棄物リサイクル分科会																																			
2	自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発	シンテック(株) 熱流体工学技術分科会、組込みシステム技術分科会																																			
3	3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発	(株)アルジュジャパン 精密加工技術分科会																																			
4	各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化	(株)松田鉄工所 精密加工技術分科会																																			
5	廃棄されている鯨油の産業利用	(株)吉田総合テクノ 精密加工技術分科会																																			
開放機器使用料減免措置	2 件																																				
新事業支援センター月額使用料減免措置	1 件																																				
項 目	件数																																				
イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得	34 件																																				
産学公連携室を中心とした取組による獲得	13 件																																				
ものづくり補助金の計画書作成支援による採択	35 件																																				
計	82 件																																				
地域イノベーション戦略支援プログラム	1 件																																				
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1 件																																				

第 1 - 2 ( 5 ) 数値目標

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																						
ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 中期計画期間中の 5 年間 合計 55 件	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 年間 11 件	2	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 8 件 ※ H28 年度内職務発明認定 (未出願分) : 3 件 ■特許等の出願及び新規使用許諾件数の内訳 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>件数</th> <th>目標参考値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特許等出願</td> <td>2 件</td> <td>8 件</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>新規使用許諾</td> <td>6 件</td> <td>3 件</td> <td>200%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8 件</td> <td>11 件</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table>	内訳	件数	目標参考値	達成度	特許等出願	2 件	8 件	25%	新規使用許諾	6 件	3 件	200%	合計	8 件	11 件	73%	年度計画はやや未達成 達成度 73% ※H28 年度内職務発明認定 (未出願分) : 3 件						
内訳	件数	目標参考値	達成度																							
特許等出願	2 件	8 件	25%																							
新規使用許諾	6 件	3 件	200%																							
合計	8 件	11 件	73%																							
イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 中期計画期間中の 5 年間 合計 20 件	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 年間 4 件	5	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 5 件 ■技術革新計画の内容 (公開分: 県ホームページ) (再掲p.25) <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発</td> <td>(有)アセンティー</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発</td> <td>シンテック(株)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発</td> <td>(株)アルジュ・ジャパン</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化</td> <td>(株)松田鉄工所</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>廃棄されている鯨油の産業利用</td> <td>(株)吉田総合テクノ</td> </tr> </tbody> </table>	1	油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発	(有)アセンティー	2	自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発	シンテック(株)	3	3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発	(株)アルジュ・ジャパン	4	各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化	(株)松田鉄工所	5	廃棄されている鯨油の産業利用	(株)吉田総合テクノ	年度計画を十二分に達成 達成度 125%							
1	油吸着材を用いた油水分離槽の前処理装置の開発	(有)アセンティー																								
2	自動運転技術を見据えたディスプレイ総合評価システムの開発	シンテック(株)																								
3	3Dモデリング技術を用いたオリジナルカーデザインの開発	(株)アルジュ・ジャパン																								
4	各種耐性に優れた金属材料の加工法の確立及び事業化	(株)松田鉄工所																								
5	廃棄されている鯨油の産業利用	(株)吉田総合テクノ																								
ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 中期計画期間中の 5 年間 合計 30 件	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 年間 6 件	5	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 14 件(9 件) ■センターで実施契約を伴うもの <table border="1"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)</td> <td>1 件(1 件)</td> </tr> <tr> <td>農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業</td> <td>5 件(5 件)</td> </tr> <tr> <td>研究成果展開事業マッチングプランナープログラム</td> <td>1 件(0 件)</td> </tr> <tr> <td>やまぎん地域企業助成基金</td> <td>2 件(1 件)</td> </tr> <tr> <td>中国電力技術研究財団</td> <td>1 件(1 件)</td> </tr> <tr> <td>NEDO 課題設定型産業技術開発助成金 (H27 年度追加実証・用途開拓研究支援事業～サンプルづくり支援事業～) (有)デジタル・マイスター)</td> <td>1 件(1 件)</td> </tr> <tr> <td>スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター (H25-29)</td> <td>1 件(0 件)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1 件(0 件)</td> </tr> <tr> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業</td> <td>1 件(0 件)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14 件(9 件)</td> </tr> </tbody> </table> ※獲得件数の内、()内は新規	提案公募名	獲得件数	戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	1 件(1 件)	農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	5 件(5 件)	研究成果展開事業マッチングプランナープログラム	1 件(0 件)	やまぎん地域企業助成基金	2 件(1 件)	中国電力技術研究財団	1 件(1 件)	NEDO 課題設定型産業技術開発助成金 (H27 年度追加実証・用途開拓研究支援事業～サンプルづくり支援事業～) (有)デジタル・マイスター)	1 件(1 件)	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター (H25-29)	1 件(0 件)	地域イノベーション戦略支援プログラム	1 件(0 件)	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1 件(0 件)	計	14 件(9 件)	年度計画を十二分に達成 達成度 233%
提案公募名	獲得件数																									
戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	1 件(1 件)																									
農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	5 件(5 件)																									
研究成果展開事業マッチングプランナープログラム	1 件(0 件)																									
やまぎん地域企業助成基金	2 件(1 件)																									
中国電力技術研究財団	1 件(1 件)																									
NEDO 課題設定型産業技術開発助成金 (H27 年度追加実証・用途開拓研究支援事業～サンプルづくり支援事業～) (有)デジタル・マイスター)	1 件(1 件)																									
スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター (H25-29)	1 件(0 件)																									
地域イノベーション戦略支援プログラム	1 件(0 件)																									
ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業	1 件(0 件)																									
計	14 件(9 件)																									

ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数(つづき)	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得(つづき)		(参考) 企業が申請する提案公募型事業の獲得支援に関するもの 70件(51件) <table border="1" data-bbox="1463 268 2733 1050"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)</td> <td>35件(35件)</td> </tr> <tr> <td>中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業(NEDO)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>農林水産業・食品産業科学技術推進事業(重要施策対応型)(農林水産省)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>課題設定型産業技術開発費助成金(NEDO)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASHプロジェクト)(国土交通省)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>中国電力技術研究財団</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>H28 課題解決型産業技術開発費助成金(課題解決型福祉用具実用化開発支援事業)(NEDO)</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち地域中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《一般枠》)</td> <td>2件(2件)</td> </tr> <tr> <td>H28 マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」</td> <td>2件(2件)</td> </tr> <tr> <td>「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト(NEDO)</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>JFE21世紀財団2016年度技術研究助成</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>H29年度新産業創出研究会</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち産業戦略研究開発等補助金</td> <td>18件(4件)</td> </tr> <tr> <td>やまぎん地域企業助成基金</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業(戦略産業雇用創造プロジェクト)</td> <td>2件(2件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《成長支援枠》)</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>70件(51件)</td> </tr> </tbody> </table>	提案公募名	獲得件数	中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)	35件(35件)	中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業(NEDO)	1件(0件)	農林水産業・食品産業科学技術推進事業(重要施策対応型)(農林水産省)	1件(0件)	課題設定型産業技術開発費助成金(NEDO)	1件(0件)	下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASHプロジェクト)(国土交通省)	1件(0件)	中国電力技術研究財団	1件(0件)	H28 課題解決型産業技術開発費助成金(課題解決型福祉用具実用化開発支援事業)(NEDO)	1件(1件)	やまぐち地域中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《一般枠》)	2件(2件)	H28 マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」	2件(2件)	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト(NEDO)	1件(1件)	JFE21世紀財団2016年度技術研究助成	1件(1件)	H29年度新産業創出研究会	1件(1件)	やまぐち産業戦略研究開発等補助金	18件(4件)	やまぎん地域企業助成基金	1件(1件)	チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業(戦略産業雇用創造プロジェクト)	2件(2件)	やまぐち中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《成長支援枠》)	1件(1件)	計	70件(51件)
提案公募名	獲得件数																																						
中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)	35件(35件)																																						
中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業(NEDO)	1件(0件)																																						
農林水産業・食品産業科学技術推進事業(重要施策対応型)(農林水産省)	1件(0件)																																						
課題設定型産業技術開発費助成金(NEDO)	1件(0件)																																						
下水道革新的技術実証事業【予備調査】(B-DASHプロジェクト)(国土交通省)	1件(0件)																																						
中国電力技術研究財団	1件(0件)																																						
H28 課題解決型産業技術開発費助成金(課題解決型福祉用具実用化開発支援事業)(NEDO)	1件(1件)																																						
やまぐち地域中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《一般枠》)	2件(2件)																																						
H28 マッチングプランナープログラム「企業ニーズ解決試験」	2件(2件)																																						
「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト(NEDO)	1件(1件)																																						
JFE21世紀財団2016年度技術研究助成	1件(1件)																																						
H29年度新産業創出研究会	1件(1件)																																						
やまぐち産業戦略研究開発等補助金	18件(4件)																																						
やまぎん地域企業助成基金	1件(1件)																																						
チャレンジやまぐち中小企業総合支援事業(戦略産業雇用創造プロジェクト)	2件(2件)																																						
やまぐち中小企業育成事業助成金(創業・新事業支援助成金《成長支援枠》)	1件(1件)																																						
計	70件(51件)																																						
エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数  <div data-bbox="314 1251 742 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           中期計画期間中の5年間 合計 40件         </div>	エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数  <div data-bbox="834 1251 1288 1325" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           年間 8件         </div>	5	エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数 10件 年度計画を十二分に達成 達成度 125%  ■ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)した内訳 <table border="1" data-bbox="1463 1283 2579 1787"> <tbody> <tr><td>1</td><td>3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>2</td><td>食用鯨油およびドレッシングの商品化支援</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>3</td><td>北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>4</td><td>DLC膜製造装置の開発及び用途開発支援</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>5</td><td>世界初フルカラーUVトナーによる“スヌーズレン用品”の開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>6</td><td>作業難易度が高い環境を再現できる手術技能練習キットの開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>7</td><td>安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器“インナーシュアエース”の開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>8</td><td>歩行器装着用点滴スタンド“てんてく棒”の開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>9</td><td>患者の生命を守る医療用ミトンの開発</td><td>技術支援※</td></tr> <tr><td>10</td><td>眼球運動検査装置用プログラム“yVOG(ワイボーグ)”の開発</td><td>技術支援※</td></tr> </tbody> </table> ※ 医療関連の課題掘り起こし(イノベーション推進センター)による製品開発	1	3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討	研究開発	2	食用鯨油およびドレッシングの商品化支援	研究開発	3	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	研究開発	4	DLC膜製造装置の開発及び用途開発支援	研究開発	5	世界初フルカラーUVトナーによる“スヌーズレン用品”の開発	技術支援※	6	作業難易度が高い環境を再現できる手術技能練習キットの開発	技術支援※	7	安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器“インナーシュアエース”の開発	技術支援※	8	歩行器装着用点滴スタンド“てんてく棒”の開発	技術支援※	9	患者の生命を守る医療用ミトンの開発	技術支援※	10	眼球運動検査装置用プログラム“yVOG(ワイボーグ)”の開発	技術支援※						
1	3Dものづくり技術を活用した鋳造工程の効率化に関する検討	研究開発																																					
2	食用鯨油およびドレッシングの商品化支援	研究開発																																					
3	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	研究開発																																					
4	DLC膜製造装置の開発及び用途開発支援	研究開発																																					
5	世界初フルカラーUVトナーによる“スヌーズレン用品”の開発	技術支援※																																					
6	作業難易度が高い環境を再現できる手術技能練習キットの開発	技術支援※																																					
7	安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器“インナーシュアエース”の開発	技術支援※																																					
8	歩行器装着用点滴スタンド“てんてく棒”の開発	技術支援※																																					
9	患者の生命を守る医療用ミトンの開発	技術支援※																																					
10	眼球運動検査装置用プログラム“yVOG(ワイボーグ)”の開発	技術支援※																																					

大項目	第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化

中 期 目 標	<p>&lt;「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化に関する目標&gt;</p> <p>県内企業のものづくりパートナーとして、社会経済情勢の変化に的確に対応した技術力の向上を支援するため、大学や関係機関による研究支援機能や経営支援機能との有機的連携を図り、効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実を図る。</p> <p>また、企業訪問や相談窓口機能を活用した技術相談の充実や、新たな技術課題の掘り起こしに取り組む。</p> <p>さらに、中小企業単独では導入が困難な先端的試験研究機器の計画的整備とその開放など、各種の技術支援サービスを充実する。</p>
------------------	---

第 1 - 3 ( 1 ) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																	
産学公金の連携	産学公金の連携	4	<p>企業のものづくりや拠点機能を強化するため、政府機関の一部移転や水素関連技術支援拠点機能強化事業（再掲 p.9）など新たに 5 件の事業に参画するなど、国・県の緊急的な施策に積極的に取り組んだ。特に、政府機関の一部移転では、「<u>JAXA 西日本衛星防災利用研究センター</u>」が 2 月に産技センター内に開所され、併せて「<u>JAXA 展示コーナー</u>」も設置された【新】。</p> <p>また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を引き続き行った。特に、<u>コーディネート活動による山口大学との連携強化【新】</u>と、<u>一般社団法人日本規格協会の標準化活用支援パートナーシップ及びジェトロの海外展開支援コンソーシアムへの登録による県内企業の海外展開支援機能の強化を図った【新】</u>。</p> <p>■国・県の施策への協力状況(主なものを抜粋)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>国関連</th> <th>内容</th> <th>開催日等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">広島国税局</td> <td>中国果実酒協議会</td> <td>7/8</td> </tr> <tr> <td>H28 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員</td> <td>9/29-30, 10/4</td> </tr> <tr> <td>中国地方酒造技術指導機関協議会</td> <td>10/4</td> </tr> <tr> <td>全国市販酒類調査の品質評価会</td> <td>10/26</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">経済産業省</td> <td>H28 年度山口県産業支援3機関連携会議</td> <td>7/11</td> </tr> <tr> <td>H28 年度中国地域産業技術連携推進会議</td> <td>11/30</td> </tr> </tbody> </table>	国関連	内容	開催日等	広島国税局	中国果実酒協議会	7/8	H28 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	9/29-30, 10/4	中国地方酒造技術指導機関協議会	10/4	全国市販酒類調査の品質評価会	10/26	経済産業省	H28 年度山口県産業支援3機関連携会議	7/11	H28 年度中国地域産業技術連携推進会議	11/30	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府機関の一部移転や水素関連技術支援拠点機能強化事業など新たに 5 件の国・県の施策への取組</li> <li>・「JAXA 西日本衛星防災利用研究センター」の開所と「JAXA 展示コーナー」の設置【新】</li> <li>・やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議での山口大学との連携強化【新】</li> <li>・「日本規格協会」、「ジェトロ」との連携による海外展開支援機能の強化【新】</li> </ul>
国関連	内容	開催日等																			
広島国税局	中国果実酒協議会	7/8																			
	H28 年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	9/29-30, 10/4																			
	中国地方酒造技術指導機関協議会	10/4																			
	全国市販酒類調査の品質評価会	10/26																			
経済産業省	H28 年度山口県産業支援3機関連携会議	7/11																			
	H28 年度中国地域産業技術連携推進会議	11/30																			

県関連	内容	開催日等
環境生活部	廃棄物 3R 事業化検討業務	H28 年度
	山口県廃棄物 3R 等推進事業補金審査会	7/12
	H28 年度山口県リサイクル製品利用促進連絡会議	3/22
	電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト【新】	H28年度
商工労働部	H28 年度商工労働部課長・出先機関等の長合同会議	4/6
	次世代産業クラスター構想推進事業(イノベーション推進体制整備)	H28 年度
	やまぐち医療関連成長戦略推進事業(交流・マッチング促進)	H28 年度
	宇宙航空研究開発機構機能移転に伴う周辺環境整備事業【新】	9/12-3/31
	衛星リモートセンシングデータ活用共同研究等補助事業【新】	H28 年度
	水素関連技術支援拠点機能強化事業【新】	9/1-3/31
	やまぐち地域中小企業育成協議会・実務者会議	6/7
	山口県中小企業経営革新計画承認審査会	1 回/月
	やまぐち次世代ベンチャー創出支援補助金審査委員会委員	H28 年度
	やまぐち地域中小企業育成協議会	H28 年度
	やまぐち総合ビジネスメッセ実行委員	H28 年度
	やまぐちイノベーション推進協議会委員	H28 年度
	山口県企業立地促進補助金等審査会	12/22, 3/23
	「地域連携・低炭素水素技術実証事業」事業検討委員会	11/18, 3/27
東部高等産業技術学校運営協議会	3/23	
土木建築部	景観学習用教材等作成プロジェクトチーム	H28 年度
	「全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会」委員	10/26
農林水産部	ため池管理省力化システム仕様検討業務【新】	H28 年度
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会	6/21, 10/25
	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業審査会	7/25, 11/21
	農林水産祭参加第 48 回山口県水産加工展品評会	10/20
	山口海物語認定委員会委員	2/9
山口県下関 県民局	第 14 回長府企業フェスタ	11/12-13
産業戦略部	山口県コンビナート連携会議	5/16
山口県教育 庁	特別展「山口の虫、世界の虫」(山口県立山口博物館)への技術協力	7/15～8/28
	H28 年度高校生やまぐち創生チャレンジ事業及び未来創造チャレンジ事業推進協議会	2/17

※大学：  
山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点(JST)の共同運営。

■大学：山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点(JST)の共同運営等の取組状況

①やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議での連携

やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議の規約改正により会長と事務局を山口大学と産業技術センターが1年交替で担う体制【新】が整い、コーディネート活動での山口大学との連携を強化した。

(会議の主な活動)

1	産業技術総合研究所中国センターと広島県西部工業技術センター生産技術アカデミーを訪問	9/14
2	県内大学等のシーズ発表および研究施設見学会を開催(産技センターからパネル展示・説明)	1/30

②研究委託

	事業名	研究テーマ
1	受託研究	廃石膏ボードの排出実態等の調査および解析
2	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究業務	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究

③産学公金連携によるセミナーの共同開催等

	セミナー名	日程	場所
1	「ものづくり中小企業のための医療機器産業参入」セミナー 新規参入を確実に成功させるために	7/11	山口グランドホテル
2	「宇宙開発関連技術の現状と産業応用」セミナー	8/31	山口大学工学部
3	「社会基盤を支える環境・省エネ分野での先導的研究会開発」セミナー	10/5	産業技術センター
4	「ものづくり基盤を支える先端加工の周辺技術」セミナー	12/7	海峡メッセ下関

④提案公募など競争的資金獲得・事業推進に関する協力

	事業名
1	地域イノベーション戦略支援プログラム
2	スーパークラスタープログラム 山口地域サテライトクラスター
3	やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業

⑤研究員の講師派遣

	事業名
1	山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス展開科目1



⑥見学の受入

	学部名等	受入日	受入人数
1	山口大学農学部生物資源環境科学科	9/30	48名
2	日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」 (山口大学農学部)	11/28	22名

⑦学生研修生の受入

	概要	グループ	受入人数
1	パッシブな断熱方法による、温暖地の木造住宅屋根に必要な断熱性能達成の可能性を検証することを目的とした、数値解析と実験室実験の実施	デザインG	1名

⑧学協会等への共同発表等

	学会名等	開催日等	発表テーマ
1	Journal of Fluid Science and Technology, 11巻3号,pp.1-9	8/4	Effect of the Reynolds number on the performance and approximate modeling of the small straight-bladed vertical-axis wind turbine
2	日本生薬学会第63回年会	9/24	405nm紫色光照射によるムラサキの有効成分含量増加技術の開発
3	日本機械学会 第94期 流体工学部門 講演会	11/13	垂直軸型風車トルク特性における有効取付角の影響
4	砥粒加工学会誌 61 巻 3 号	3/1	チタンの電解研磨技術
5	H29 年電気学会全国大会	3/17	PCS を有する小容量風力発電システムにおける可変風速比制御

⑨やまぐちイノベーション創出推進拠点 (JST) の共同運営等の取組状況

	機器名	利用件数
1	フィールドエミッションオージェ電子顕微鏡	78件
2	レーザー干渉平面度測定装置	37件
3	干渉膜厚計	3件
4	X線CT装置	161件
	計	279件

⑩研究会への参加

やまぐち IoT・ロボット技術研究会:スタートアップセミナー(3/1)、第1回研究会(3/15)

※国公設試：  
技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組。

■国公設試：技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組状況

①技術相談で、外部機関を紹介した件数 36件

②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況

会議などの名称	開催年月日
H28 年度第 1 回中国地域連携推進企画分科会	5/31
H28 年度産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会第 19 回デザイン分科会	6/9-10
産技連製造プロセス部会 3D ものづくり特別分科会	6/22
第 89 回公立鉦工業試験研究機関長協議会総会	7/14-15
H28 年度産業技術連携推進会議技術向上支援事業第 1 回研修会・第 1 回検討会	8/18-19
H28 年度第 1 回炭素繊維複合材料加工技術研究会、第 19 回炭素繊維複合材料利用研究会	8/24
食品分析フォーラム推進会議	9/14-15
H28 年度産技連における企業視察	9/26-27
産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 表面技術分科会 DLC 活動研究会	9/28-10/1
第 107 回全国公設鉦工業試験研究機関事務連絡会議	9/29-30
産業技術連携推進会議 情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 第 10 回音・振動研究会	10/13-14
H28 年度全国食品技術研究会	11/1-2
産業技術連携推進会議 H28 年度知的基盤部会 第 21 回電技環境分科会、第 26 回 EMC 研究会及び幹事会	11/9-11
産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会 第 54 回高分子分科会	11/17-18
H28 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会 食品流通問題別研究会	11/17-18
H28 年度水産利用関係研究開発推進会議(利用加工技術部会、品質安全研究会、資源利用研究会)	11/17-18
H28 年度 産業技術連携推進会議 中国地域部会・四国地域部会合同環境・エネルギー技術分科会	11/17-18
産業技術連携推進会議 情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 ・情報通信研究会	11/17-18
H28 年度産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 第 6 回 3D ものづくり特別分科会	11/21-22
H28 年度中国・四国地方公設試験研究機関企画担当者会議	11/28-29
産業技術連携推進会議 情報通信・エレクトロニクス部会 第 14 回組込み技術研究会	11/29-30
産業技術連携推進会議 H28 年度知的基盤部会総会及び計測分科会	11/30-12/2
H28 年度産業技術連携推進会議(産技連) 地域部会中国四国食品関係合同分科会	12/6-7

②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況（つづき）

会議などの名称	開催年月日
H28 年度九州・沖縄地域部会第 4 回デザイン分科会	1/12-13
H28 年度産業技術連携推進会議 中国地域部会 機械・金属技術分科会	1/19
産業技術連携推進会議高分子分科会共同研究中国地区幹事会	1/25
産技連企画調整委員会	2/2
H28 年度産業技術連携推進会議中国地域部会デザイン・木材利用分科会	2/13
H28 年度食品試験研究推進会議	2/16-17
第 2 回地方公設試験研究機関金属 AM 技術担当者会議	2/16-17
産業技術連携推進会議総会	2/24
第 39 回 各府県工業技術センター・研究所プラスチック担当者会議	3/3-4
H28 年度第 2 回炭素繊維複合材料加工技術研究会	3/13

③共同研究等

	テーマ等の名称	グループ
1	3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）（産総研）	加工技術
2	30MHz以下のEMI測定のための基準信号発生器および比較試験プロトコルの開発（産総研）	電子応用
3	炭素繊維複合材料の加工技術に関する研究（産総研）	加工技術
4	味覚センサーによる味覚の共同分析に関する研究（産総研）	食品技術
5	酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討（酒類総合研究所）	食品技術

④委員等就任

	会議などの名称	備考
1	研究・事業化推進委員会委員	1回/年
2	中国地域質感色感研究会副委員長	

⑤産業技術連携推進会議中国地域部会企画分科会の研究会

	研究会テーマ
1	炭素繊維複合材料加工技術研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）
2	味覚評価研究会（広島県、岡山県、鳥取県、島根県、山口県、中国センター）
3	感性・人間工学研究会（広島県、山口県、鳥取県、中国センター）

※民間機関：  
 依頼試験・開放機器の補完関係の定期的な見直し（建材試験センター、民間試験機関等）。

※金融機関：  
 金融機関と帯同しての企業訪問を実施し、技術と経営の両面から企業のイノベーション支援。  
 金融機関、山口大学、やまぐち産業振興財団、センターが連携した企業と大学等のシーズ・ニーズマッチングを推進する取組の実施。

■九州・山口知事会による公設試連携の取組状況

①九州地域の企業からの技術相談対応

県名	件数
福岡県	281 件
大分県	25 件
熊本県	5 件
佐賀県	7 件
計	318 件

②共同研究

	研究テーマ
1	生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究 （●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）
2	EMC サイトにおける測定品質の向上と不確かさの算出 （●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、鹿児島県）

●：幹事県

■民間機関：依頼試験・開放機器の補完関係を構築に関する状況（建材試験センター、民間試験機関等）

民間試験機関との補完関係を定期的にも見直しながら、企業の相談に適切に対応している。現在 29 の民間試験機関と補完関係を築いている。

■金融機関

(1)山口フィナンシャルグループ等との包括連携協定の実効性のある取組状況

①産学公金連携によるセミナーの共同開催等（再掲 p.30）

	セミナー名	日程	場所
1	「ものづくり中小企業のための医療機器産業参入」セミナー 新規参入を確実に成功させるために	7/11	山ログランドホテル
2	「宇宙開発関連技術の現状と産業応用」セミナー	8/31	山口大学工学部
3	「社会基盤を支える環境・省エネ分野での先導的研究会開発」セミナー	10/5	産業技術センター
4	「ものづくり基盤を支える先端加工の周辺技術」セミナー	12/7	海峡メッセ下関

※やまぐち産業振興財団：  
センターと企業支援の両輪として連携した取組、海外展開支援等。

②山口銀行主催のものづくり補助金相談会支援及び山口銀行との企業訪問  
山口銀行主催のものづくり補助金相談会の支援や県内企業のマッチングに関して山口銀行と共に企業訪問を実施した。

項目	回数
ものづくり補助金相談会支援	5回
企業訪問	14回

(2)その他金融機関との取組

○金融機関等が主催する展示会への出展および技術相談対応

第9回山口県しんきん合同ビジネスフェア	5/18	海峡メッセ下関
---------------------	------	---------

■やまぐち産業振興財団

①やまぐち産業振興財団が主催する主な事業への協力

○各種委員等

主要な内容	備考
やまぐち産業振興財団理事	理事(理事長)
やまぐち地域中小企業育成事業審査委員会	委員
中小企業等外国出願支援事業に係る審査委員会の審査委員	委員
山口県プロフェッショナル人材戦略協議会委員	委員
小規模企業者等設備導入資金審査委員会委員	委員
元気企業サポート委員会委員	委員

○知財相談窓口の設置（通年1回/週（産技センター2階））

○企業の技術検討会への職員の派遣

企業名	事業名	期間等
株式会社ニシエフ	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業	H28.4-5(2回)
株式会社シーパーツ	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業	H28.7-12(5回)
エコマス株式会社	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業	H28.12-H29.1(4回)

■その他機関との連携（海外展開支援）

- ・一般社団法人日本規格協会との標準化活用支援パートナーシップへの登録を行い、「中堅・中小企業のための「標準化」制度活用戦略セミナー・個別相談会（10/28）」の開催【新】。
- ・ジェトロとの海外展開支援コンソーシアムへの登録【新】。
- ・ジェトロアドバイザー派遣（2社）及びジェトロとの共同企業訪問（2社）【新】。
- ・広域首都圏輸出製品技術センター（MTEP）運営委員会への参加。

第 1 - 3 ( 2 ) 技術相談の充実

中期計画	H28 年度の年度計画	評定	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																		
技術相談の充実	技術相談の充実	3	<p>技術相談を一元化する技術相談室に、相談対応の専任者を引き続き配置し、迅速かつ的確な対応に努めている。また、グループウェアによる 1 回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に努めた。</p> <p>巡回相談窓口に関しては、各種イベント等の会場に研究員を派遣し、現地での技術相談に対応した。</p> <p>サテライト窓口では地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。</p> <p>また、<u>県内企業の海外展開支援に係るセンターの基本方針を定め、一般社団法人日本規格協会の標準化活用支援パートナーシップ及びジェトロの海外展開支援コンソーシアムへの登録（再掲 p.28）</u>や当センターが企画して県内企業と共に台湾の情報関連産業の現地調査を行うなど積極的に取り組んだ【新】。</p> <p>■技術相談室の体制（H28 年度）</p> <table border="0"> <tr> <td>室長</td> <td>1 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>サブリーダー</td> <td>1 名（兼任）</td> </tr> <tr> <td>シニアスタッフ</td> <td>1 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>非常勤嘱託</td> <td>4 名（専任）</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>2 名（専任）</td> </tr> </table> <p>■企業訪問状況</p> <p>①研究員による巡回企業訪問（県内）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回企業訪問</td> <td>119 企業</td> </tr> </tbody> </table> <p>②研究員による新規企業訪問（県内）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規企業訪問</td> <td>54 企業</td> </tr> </tbody> </table>	室長	1 名（専任）	サブリーダー	1 名（兼任）	シニアスタッフ	1 名（専任）	非常勤嘱託	4 名（専任）	臨時職員	2 名（専任）		実績数	巡回企業訪問	119 企業		実績数	新規企業訪問	54 企業	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内企業の海外展開支援に係る産技センターの基本方針を定め、外部機関と連携して県内企業の海外展開を支援【新】</li> </ul>
室長	1 名（専任）																					
サブリーダー	1 名（兼任）																					
シニアスタッフ	1 名（専任）																					
非常勤嘱託	4 名（専任）																					
臨時職員	2 名（専任）																					
	実績数																					
巡回企業訪問	119 企業																					
	実績数																					
新規企業訪問	54 企業																					

■企業の技術検討会への職員の派遣（再掲p.35）

企業名	事業名	期間等
株式会社ニシエフ	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業（やまぐち産業振興財団）	H28.4-5(2回)
株式会社シーパーツ	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業（やまぐち産業振興財団）	H28.7-12(5回)
エコマス株式会社	H28 年度特定テーマ事業化支援助成金事業（やまぐち産業振興財団）	H28.12-H29.1(4回)

■巡回相談窓口に関する取組

イベント等の名称	場所	内容	日程
第9回山口県しんきん合同ビジネスフェア	海峡メッセ下関	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	5/18
やまぐち総合ビジネスメッセ2016	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	10/28-29
やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会	ホテルかめ福	技術支援成果内容紹介及び技術相談対応	1/17
地域資源を活用した「商品力向上セミナー」～食品表示・成分分析・加工技術～【新】	①柳井クルーズホテル ②セントコア山口 ③美祢グランドホテル	食品成分分析・加工技術紹介及び技術相談対応	①3/6 ②3/10 ③3/13

■サテライト窓口の取組状況

①相談対応件数 126件

相談状況	件数
訪問	109件
来所	14件
電話	1件
FAX	0件
電子メール	2件
その他	0件
合計	126件

対応状況	件数
情報提供	5件
産技Cへ相談	6件
開放機器対応	4件
依頼試験対応	0件
外部機関紹介	1件
その他	110件
合計	126件

②サテライト窓口のPR活動

1	サテライト窓口のPRを含む施設利用案内を窓口に配置
2	しんきん合同ビジネスフェア2016ブース出展PR
3	やまぐち総合ビジネスメッセ2016ブース出展PR
4	山口県産業技術センターパンフレット、開放機器一覧、施設利用案内を山口県東部地域企業・団体へ送付
5	地場産センター職員に同行して企業訪問の実施

■海外展開支援（再掲p.35）

- ・ 一般社団法人日本規格協会との標準化活用支援パートナーシップへの登録を行い、「中堅・中小企業のための「標準化」制度活用戦略セミナー・個別相談会（10/28）」の開催【新】。
- ・ ジェトロとの海外展開支援コンソーシアムへの登録【新】。
- ・ ジェトロアドバイザー派遣（2社）及びジェトロとの共同企業訪問（2社）【新】。
- ・ 当センター企画の台湾情報関連産業現地調査【新】。
- ・ 広域首都圏輸出製品技術センター（MTEP）運営委員会への参加。



第 1 - 3 ( 3 ) 新たな技術課題の掘り起こし

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																		
農商工連携等の取組支援 県内企業のものづくり技術を地域資源に有効に活用する観点（技術の地産地消）から、2次産業にとどまらず、1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組を強化し、地域資源とものづくり技術とのマッチングや農商工連携・6次産業化による課題解決の取組を支援する。	農商工連携等の取組支援 1次産業（農業・漁業）や3次産業（サービス業）の技術課題を掘り起こし、農林総合技術センターや水産研究センター等の県内公設試からの課題抽出を行い、ものづくり企業や関係機関と連携して、共同研究や、競争的資金の獲得支援等、課題解決に向けた取組を行う。	4	<p>農業・漁業分野については、農商工連携や6次産業化を目指し、県内企業、農業・漁業従事者、農林総合技術センター、水産研究センター等からの課題抽出を行い、産技センターの12テーマの研究開発に反映させるとともに、国の提案公募型研究開発事業に他公設試等と共同申請し、5テーマが採択された。また、農林総合技術センターからの受託業務も受け入れた。</p> <p>サービス分野については、医療、デザイン、廃棄物処理などの関連企業や団体との連携を深めて課題の掘り起こしを行い、ものづくり企業の製品開発に繋げる取組を続けている。特にH28年度には、医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって6件の事業化を達成した。また、JAXAや山口大学と連携して衛星リモートセンシングデータを情報産業に展開する取組（研究会）【新】（再掲p.24）も始めた。</p> <p>また、農商工連携や廃棄物3Rに関する会議の出席や、審査会への協力などを行うとともに、県の事業を活用し、ものづくり企業や関係機関と連携してセミナーや展示会の開催など交流やマッチングのための取組を実施した。</p> <p>(1)農業・漁業 ■6次産業化・農商工連携に係る研究開発の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">研究テーマ</th> <th style="width: 20%;">担当グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発</td> <td rowspan="6">食品技術グループ</td> </tr> <tr> <td>乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価</td> </tr> <tr> <td>やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発</td> </tr> <tr> <td>清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術</td> </tr> <tr> <td>酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討</td> </tr> <tr> <td>和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証</td> </tr> <tr> <td>山田錦の優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略</td> <td rowspan="2">材料技術・環境技術グループ</td> </tr> <tr> <td>鯨油を利用した飼料および塗料の開発</td> </tr> <tr> <td>鯨油の改質と生分解性漁網用塗料への応用</td> <td>材料技術グループ</td> </tr> <tr> <td>LEDを用いた育苗用補光装置の開発</td> <td rowspan="3">設計制御グループ</td> </tr> <tr> <td>ケンサキイカ釣用LED集魚灯の開発</td> </tr> <tr> <td>低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発</td> </tr> </tbody> </table>	研究テーマ	担当グループ	特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発	食品技術グループ	乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価	やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発	清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術	酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	山田錦の優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略	材料技術・環境技術グループ	鯨油を利用した飼料および塗料の開発	鯨油の改質と生分解性漁網用塗料への応用	材料技術グループ	LEDを用いた育苗用補光装置の開発	設計制御グループ	ケンサキイカ釣用LED集魚灯の開発	低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業・漁業分野については、県内事業者や公設試等から課題抽出を行い 12 テーマの研究開発に反映し、国の提案公募型研究開発事業に 5 テーマが採択</li> <li>・サービス分野については、医療関係の課題の掘り起こしから 6 件の事業化（再掲 p.27）、JAXA 等と連携した衛星データの情報産業への展開する取組を開始【新】（再掲 p.24）</li> </ul>
研究テーマ	担当グループ																					
特徴的な香味を活かした山口県産和紅茶の開発	食品技術グループ																					
乾燥技術を用いた水産乾燥品の品質設計とその評価																						
やまぐち山廃酵母の特徴を活かした清酒の開発																						
清酒製造工程における汚染微生物生育抑制技術																						
酒粕の乾燥方法と回収物の成分及び機能性の検討																						
和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証																						
山田錦の優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略	材料技術・環境技術グループ																					
鯨油を利用した飼料および塗料の開発																						
鯨油の改質と生分解性漁網用塗料への応用	材料技術グループ																					
LEDを用いた育苗用補光装置の開発	設計制御グループ																					
ケンサキイカ釣用LED集魚灯の開発																						
低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発																						

■6次産業化・農商工連携に係る企業との共同研究・受託研究（研究テーマは非公開）（再掲 p.21）

※大学・研究機関等は除く

共同研究	0テーマ
受託研究	3テーマ

■国の提案公募型研究開発事業の採択状況（再掲p.14-15）

事業名	研究課題	関係機関
革新的技術開発・緊急展開事業	沿岸イカ釣漁業における漁業技術の革新による操業の効率化	水産研究センター
革新的技術開発・緊急展開事業	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	農林総合技術センター
革新的技術開発・緊急展開事業	山田錦レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略	兵庫県立農林水産技術総合センター
革新的技術開発・緊急展開事業	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発	農業・食品産業技術総合研究機構
革新的技術開発・緊急展開事業	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のためのIT利用「めきき」技術の開発	水産研究センター

■農林水産系公設試からの受託（再掲p.29）

公設試	課題
農林総合技術センター	ため池管理省力化システム仕様検討業務

(2)サービス業

■医療関連での事業化（商品化）：6件（再掲p.27）

1	世界初フルカラーUVトナーによる“スムーズレン用品”の開発
2	作業難易度が高い環境を再現できる手術技能練習キットの開発
3	安全・確実な細径管吻合を実現する吻合補助器“インナーシュアエース”の開発
4	歩行器装着用点滴スタンド“てんてく棒”の開発
5	患者の生命を守る医療用ミトンの開発
6	眼球運動検査装置用プログラム“yVOG(ワイボーク)”の開発

■衛星データ解析技術研究会【新】（再掲 p. 24）

衛星データ解析技術研究会を設立し（2/23）、研究会を開催した。

名称	場所	開催日
衛星データ解析技術研究会設立講演会	多目的ホール	2/23
第1回衛星データ解析技術研究会	多目的ホール	3/13

(3)第1・3次産業関連機関との連携

■6次産業化・農商工連携に係る会議などの出席（主なもの）（再掲p.29）

やまぐち6次産業化・農商工連携推進協議会	6/1, 10/25
やまぐち6次産業化・農商工連携推進事業審査会	7/25, 11/21
H28年度山口県試験研究機関技術交流協議会第1回幹事会	8/5
H28年度山口県試験研究機関技術交流協議会第1回機関長会	9/12

■6次産業化・農商工連携に係る講演会・展示会等への参加（主なもの）

函館鯨フェスティバル（北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援）	6/5
やまぐち6次産業化・農商工連携人材育成研修公開講座	9/14
アグリビジネス創出フェア2016（革新的技術開発・緊急展開事業の成果発信）	12/14-15
やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会（パネル展示2枚）	1/17

■サービス業関連職員派遣等（主なもの）

中国地域質感色感研究会の副委員長への就任	(公財)ちゅうごく産業創造センター
山口県産桜皮を用いたデザイン性の高いプロダクトの研究開発事業における専門家派遣	(有)ひわだや
下関市屋外広告業講習会への講師派遣	下関市
「エネルギー監視システム用サイネージシステムの開発」に係る検討会への研究員の派遣	エコマス(株)

■廃棄物3Rに関する会議等の出席（主なもの）（再掲p.29）

廃棄物3R事業化検討業務	H28年度
山口県廃棄物3R等推進事業補金審査会	7/12
H28年度山口県リサイクル製品利用促進連絡会議	3/22
電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト【新】	H28年度

第 1 - 3 ( 4 ) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等													
<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努めるとともに、専門知識を有する人材を活用した機器操作補助員の拡充により技術支援機能を強化し、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	<p>技術支援サービスの充実</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、研究開発の高度化、迅速化に資する機器整備の充実に努めることで、以下の技術支援サービスの充実を図る。また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	4	<p>企業に対する機器ニーズ調査を実施し、機器導入計画に反映させるとともに、翌年度の機器整備事業（JKA補助）に該当する機器について当該事業に申請した。また、前年度調査結果に基づき上記事業に申請した2機器を導入した。更に、試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の有無等について検討し、追加で14機器について新規・更新・増設による整備を行い、より一層の充実に努めた。</p> <p>また、<u>試験研究機器の寿命の長期化を図り、センターの支援機能低下を防ぐため、修繕の対象機器を調査・検討し、8機器について修繕を行った【新】。</u></p> <p>技術支援の地域差対策として、前年度に引き続き、機器活用事例のパネルを10機器について新たに作成・掲示するとともに、H28度は、新たに、県内で企業数の多い<u>食品関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレット（調味料メーカー用）の作成・配布（78社）や食品成分分析・加工技術についてのセミナー・個別相談を県内3か所で行うなど食品関連企業利用促進対策を実施した【新】。</u></p> <p>技術支援アンケートでは、94%以上の利用者から満足との回答があった。企業の要望に基づきH25年度より開始した機器利用研修会については、前年度の2テーマから4テーマを増やして開催した。サービスの充実については随時検討しているが、H28年度は技術支援サービスを企業が受ける目的を分析するためのデータ収集方法を試行した。</p> <p>■企業への機器ニーズ調査の実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>アンケート配布総数</td> <td>765件</td> </tr> <tr> <td>回答総数</td> <td>195件</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>25.6%</td> </tr> </table> <p>■H28年度に導入された機器</p> <p>①要望の高かった新規・更新導入機器の整備</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>ガスクロマトグラフ</td> <td>新規</td> <td rowspan="2">JKA補助</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>電磁干渉試験機</td> <td>更新</td> </tr> </table>	アンケート配布総数	765件	回答総数	195件	回収率	25.6%	1	ガスクロマトグラフ	新規	JKA補助	2	電磁干渉試験機	更新	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のニーズを反映した機器整備（2 機器）</li> <li>・技術支援サービス向上に必要な機器整備（新規・更新・増設：14 機器）</li> <li>・機器寿命の長期化のための修繕（8 機器）【新】</li> <li>・機器活用事例パネルの作成・掲示：10 機器</li> <li>・食品関連企業利用促進対策の実施【新】</li> <li>・機器利用研修会を4テーマを増やして開催</li> </ul>
アンケート配布総数	765件																
回答総数	195件																
回収率	25.6%																
1	ガスクロマトグラフ	新規	JKA補助														
2	電磁干渉試験機	更新															

②試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の整備(14 機器)

1	電動ミンチ製造装置	新規
2	紅茶専用小型揉捻機	新規
3	自然両軸型プレス機	新規
4	真空検体乾燥システム	新規
5	高速液体クロマトグラフ用有機酸分析システム	増設
6	騒音計用ソフトウェア	増設
7	FT-IR マイクロ ATR システム(光学系強化)	増設
8	アミノ酸分析装置	更新
9	精密砥石切断機	更新
10	クリーンベンチ	更新
11	マイクロプレートリーダー	更新
12	オートクレーブ	更新
13	制御系設計支援システム用パソコン	更新
14	ハンドヘルド振動計	更新

③機器寿命の長期化を図った機器 (8機器)

1	X 線 CT 装置	修繕
2	蛍光 X 線分析装置(WDXRF)	修繕
3	高精度三次元測定機	修繕
4	データロガー	修繕
5	切削動力計	修繕
6	粘弾性測定装置	修繕
7	高速液体クロマトグラフ	修繕
8	複合環境試験機(振動試験機)	修繕

※新規・増設・更新・修繕の定義

新規：新たな機器の導入

更新：既存機器の更新

増設：既存機器に新たな機器等を付加

修繕：故障中（一部故障を含む）の機器を従前と同じ機能で使用可能な状態に戻すもの

■**食品関連パンフレット（調味料メーカー向け）【新】**

県内調味料メーカー78社に郵送配布。

■**食品成分分析・加工技術セミナー・個別相談【新】**

開催地	参加人数
柳井クルーズホテル（3/6）	14名
セントコア山口（3/10）	11名
美祢グランドホテル（3/13）	16名

■**技術支援アンケートの実施状況**

項目	H26	H27	H28
アンケート配布総数	109件	107件	96件
回答総数	103件	103件	96件
回収率	94%	96%	100%
電話や窓口対応の満足度*1	98%	94%	94%
事務手続き等の満足度*1	95%	93%	99%
技術支援サービスの満足度*1	95%	96%	94%

\*1 満足度：満足・どちらかという満足

■**開放機器の利用促進を目的とした機器利用研修会の開催状況**

研修テーマ	開催日
プラスチック強度試験における最新試験機活用セミナー	9/28
粘弾性測定装置による熱分析(DSC/TMA および DMA)講習会	11/15-16
FT-IR 入門	1/26
真空注型システム活用セミナー	2/24

■**企業情報の活用促進**

（株）東京商工リサーチの企業情報により、支援している関係企業の経営状況の把握等により適切な技術支援を行っている。

<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放などによる利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放、使用料減免等による利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	4	<p>新規導入機器については、研究目的以外の多くの機器を開放し、既存の機器については、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保した。</p> <p>中国地域5県の企業の使用料を県内と同一料金とする制度の運用を開始するとともに、熊本地震での被災地支援として熊本県企業の使用料を県内と同一料金（3月末まで）とする対応を迅速に行った【新】。</p> <table border="1" data-bbox="1469 541 1855 640"> <tr> <td>中国地域5県</td> <td>41件</td> </tr> <tr> <td>熊本地震対応</td> <td>3件</td> </tr> </table> <p>また、技術革新計画を承認された企業に対して開放機器の使用料金の減免措置を講じる制度を新たに施行した（4/1～）（制度利用：2社）【新】（再掲p.25）。</p> <p>開放機器一覧2016を作成し、利用企業に配布した。</p> <p>H26年度に行った開放機器の専門操作補助員の2名増員が効果的に機能し、過去最高であった前年度と同程度の利用件数であり、利用金額は上回った。</p> <p>■開放機器利用実績推移（独法化以降）</p> <table border="1" data-bbox="1469 1018 2715 1165"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>2,526</td> <td>2,584</td> <td>2,791</td> <td>2,825</td> <td>3,129</td> <td>3,078</td> <td>3,565</td> <td>3,430</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>12,535</td> <td>14,316</td> <td>16,198</td> <td>16,296</td> <td>16,933</td> <td>20,629</td> <td>20,078</td> <td>20,482</td> </tr> </tbody> </table>	中国地域5県	41件	熊本地震対応	3件		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430	利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国地域5県及び熊本地震対応での使用料の県内と同一料金化【新】</li> <li>技術革新承認企業の開放機器使用料金減免措置の施行（制度利用：2社）【新】（再掲p.25）</li> <li>開放機器専門操作補助員が効果的に機能し、過去最高を達成したH27年度と同程度の件数であり、利用金額は上回った</li> </ul>
中国地域5県	41件																																		
熊本地震対応	3件																																		
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28																											
利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430																											
利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482																											
<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	4	<p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行った。その結果、試験内容の充実が図られ、H21年度以降、オーダーメイド試験の割合が年々増加するとともに、依頼試験全体の利用金額も増え、H28年度は過去最高【新】となった。なお、オーダーメイド試験は、一般に試験の内容が複雑で試験時間も長くなるので、一件当たりの単価が高くなる傾向にある。</p> <p>■依頼試験、オーダーメイド試験の利用件数</p> <table border="1" data-bbox="1469 1690 2359 1837"> <thead> <tr> <th></th> <th>依頼試験総数</th> <th>左のうちオーダーメイド試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数</td> <td>577件</td> <td>170件(29.5%)</td> </tr> <tr> <td>利用金額</td> <td>13,446千円</td> <td>8,780千円(65.3%)</td> </tr> </tbody> </table>		依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験	利用件数	577件	170件(29.5%)	利用金額	13,446千円	8,780千円(65.3%)	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オーダーメイド試験の割合が増加し、利用金額が過去最高【新】</li> </ul>																						
	依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験																																	
利用件数	577件	170件(29.5%)																																	
利用金額	13,446千円	8,780千円(65.3%)																																	

			<p>■ 依頼試験実績推移（独法化以降）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>625</td> <td>609</td> <td>673</td> <td>639</td> <td>728</td> <td>621</td> <td>558</td> <td>577</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>5,362</td> <td>8,059</td> <td>7,201</td> <td>9,303</td> <td>9,773</td> <td>8,840</td> <td>10,688</td> <td>13,446</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用件数(件)</td> <td>36</td> <td>64</td> <td>102</td> <td>115</td> <td>137</td> <td>125</td> <td>122</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>5.8</td> <td>10.5</td> <td>15.2</td> <td>18.0</td> <td>18.8</td> <td>20.1</td> <td>21.9</td> <td>29.5</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用金額(千円)</td> <td>479</td> <td>2,432</td> <td>2,859</td> <td>4,014</td> <td>3,348</td> <td>3,164</td> <td>5,777</td> <td>8,780</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>8.9</td> <td>30.2</td> <td>39.7</td> <td>43.1</td> <td>34.3</td> <td>35.8</td> <td>54.1</td> <td>65.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>* O.M.: オーダーメイド</p>		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577	利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446	内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170	(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5	内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780	(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28																																																										
利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577																																																										
利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446																																																										
内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170																																																										
(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5																																																										
内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780																																																										
(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3																																																										
ウ 受託研究・共同研究	ウ 受託研究・共同研究	3	<p>企業ニーズに即応し、受託研究・共同研究の受入を行い、開始時期や研究期間についても柔軟に対応した。</p> <p>■ 受託研究・共同研究の実績と複数年度にまたがる受入状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受入件数</th> <th>うち、複数年度にまたがるもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>10件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>		受入件数	うち、複数年度にまたがるもの	共同研究	3件	2件	受託研究	10件	0件	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・従来通りの取組を実施</p>																																																					
	受入件数	うち、複数年度にまたがるもの																																																																
共同研究	3件	2件																																																																
受託研究	10件	0件																																																																
エ 技術者研修	エ 技術者研修	3	<p>企業の要望に即応して企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修等を行った。また、技術動向や課題解決手法等に関するセミナーを開催した。</p> <p>■ 技術者受入れ所内研修の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>受入期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技術者受入研修</td> <td>2名</td> <td>11/11-2/24, 1/31-2/28</td> </tr> <tr> <td>スポット研修(2週間以内)</td> <td>6名</td> <td>6/6-17, 7/13, 9/1-30, 3/7-31</td> </tr> <tr> <td>学生研修生</td> <td>3名</td> <td>4/4-3/31, 4/15-3/31, 10/1-3/31</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ研修生</td> <td>1名</td> <td>12/12-2/10</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ 企業に派遣する所外研修の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣職員数</th> <th>派遣期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表面処理技術の習得</td> <td>1名</td> <td>12日(12時間)</td> </tr> <tr> <td>表面処理技術の習得と環境対策</td> <td>1名</td> <td>14日(14時間)</td> </tr> </tbody> </table>		人数	受入期間	技術者受入研修	2名	11/11-2/24, 1/31-2/28	スポット研修(2週間以内)	6名	6/6-17, 7/13, 9/1-30, 3/7-31	学生研修生	3名	4/4-3/31, 4/15-3/31, 10/1-3/31	インターンシップ研修生	1名	12/12-2/10	研修テーマ	派遣職員数	派遣期間	表面処理技術の習得	1名	12日(12時間)	表面処理技術の習得と環境対策	1名	14日(14時間)	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・従来通りの取組を実施</p>																																						
	人数	受入期間																																																																
技術者受入研修	2名	11/11-2/24, 1/31-2/28																																																																
スポット研修(2週間以内)	6名	6/6-17, 7/13, 9/1-30, 3/7-31																																																																
学生研修生	3名	4/4-3/31, 4/15-3/31, 10/1-3/31																																																																
インターンシップ研修生	1名	12/12-2/10																																																																
研修テーマ	派遣職員数	派遣期間																																																																
表面処理技術の習得	1名	12日(12時間)																																																																
表面処理技術の習得と環境対策	1名	14日(14時間)																																																																



			<p>■技術動向や課題解決手法等に関するセミナーの開催状況</p> <table border="1" data-bbox="1466 283 2733 829"> <thead> <tr> <th>セミナー名</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プラスチック強度試験における最新試験機活用セミナー</td> <td>9/28</td> </tr> <tr> <td>粘弾性測定装置による熱分析(DSC/TMA および DMA)講習会</td> <td>11/15-16</td> </tr> <tr> <td>FT-IR 入門</td> <td>1/26</td> </tr> <tr> <td>真空注型システム活用セミナー</td> <td>2/24</td> </tr> <tr> <td>戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー (計 4回)</td> <td>7/11, 8/31, 10/5, 12/7</td> </tr> <tr> <td>医工連携の推進に向けたシーズ発表会</td> <td>12/27</td> </tr> <tr> <td>水素関連技術マッチングセミナー</td> <td>2/22</td> </tr> <tr> <td>介護・福祉機器セミナー&amp;開発テーマ報告会</td> <td>7/19</td> </tr> <tr> <td>介護・福祉機器開発セミナー</td> <td>3/3</td> </tr> <tr> <td>※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代関連研究会</td> <td>再掲 p.11, p.22-24</td> </tr> </tbody> </table>	セミナー名	開催日	プラスチック強度試験における最新試験機活用セミナー	9/28	粘弾性測定装置による熱分析(DSC/TMA および DMA)講習会	11/15-16	FT-IR 入門	1/26	真空注型システム活用セミナー	2/24	戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー (計 4回)	7/11, 8/31, 10/5, 12/7	医工連携の推進に向けたシーズ発表会	12/27	水素関連技術マッチングセミナー	2/22	介護・福祉機器セミナー&開発テーマ報告会	7/19	介護・福祉機器開発セミナー	3/3	※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代関連研究会	再掲 p.11, p.22-24	
セミナー名	開催日																									
プラスチック強度試験における最新試験機活用セミナー	9/28																									
粘弾性測定装置による熱分析(DSC/TMA および DMA)講習会	11/15-16																									
FT-IR 入門	1/26																									
真空注型システム活用セミナー	2/24																									
戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー (計 4回)	7/11, 8/31, 10/5, 12/7																									
医工連携の推進に向けたシーズ発表会	12/27																									
水素関連技術マッチングセミナー	2/22																									
介護・福祉機器セミナー&開発テーマ報告会	7/19																									
介護・福祉機器開発セミナー	3/3																									
※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、次世代関連研究会	再掲 p.11, p.22-24																									
<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>新事業創造支援センターを、県内企業や新規立地企業の技術開発による新事業展開を促進する場として効果的に活用する。</p>	<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>入居メリット（機器利用料の減免措置）や入居要件の緩和（大企業やセンターの支援制度（開放機器、依頼試験、受託研究、共同研究）又は知的財産権を利用する中小企業等のスポット利用）をPRすることにより利用促進を図る。</p>	<p>3</p>	<p>入居企業に対する開放機器使用料金の減免措置制度及び1企業最大2室までの使用許諾を継続的に実施した。</p> <p>新事業創造支援センターの利用促進と技術革新等に取り組む企業への支援強化を図るため、技術革新計画の知事承認企業に対する月額使用料金の減免措置の制度を施行した（4/1～）【新】（再掲p.25）。また、新事業創造支援センターの利用促進を図るために、パンフレット等を活用してPRに努めた。</p> <p>■支援センターの入居状況（全12室）</p> <table border="1" data-bbox="1457 1360 2288 1459"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 年度末時点</th> <th>減免措置制度利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居企業数（室数）</td> <td>5社（6室）</td> <td>うち1社</td> </tr> </tbody> </table>		H28 年度末時点	減免措置制度利用	入居企業数（室数）	5社（6室）	うち1社	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進を図るために、パンフレット等を活用してPR</li> <li>・技術革新計画承認企業に対する減免措置制度の施行【新】</li> </ul> <p>※ 制度利用：1社</p>																
	H28 年度末時点	減免措置制度利用																								
入居企業数（室数）	5社（6室）	うち1社																								

第 1 - 3 ( 5 ) 数値目標

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																
ア 技術相談件数  中期計画期間中の 5 年間 合計 16,500 件	ア 技術相談件数  年間 3,300 件	5	ア 技術相談件数 4,301 件	年度計画を十二分に達成 達成度 130%																
イ 訪問企業数  中期計画期間中の 5 年間 合計 1,150 社	イ 訪問企業数  年間 230 社	5	イ 訪問企業数 532 社 (うちイノベーション推進センターによる企業訪問数 304社)	年度計画を十二分に達成 達成度 231%																
ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  中期計画期間中の 5 年間 合計 15,200 件	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  年間 3,040 件	5	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 4,007 件  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28年度実績</th> <th>項目別見込み値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放機器利用件数</td> <td>3,430件</td> <td>2,400件</td> <td>143%</td> </tr> <tr> <td>依頼試験利用件数</td> <td>577件</td> <td>640件</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,007件</td> <td>3,040件</td> <td>132%</td> </tr> </tbody> </table>		H28年度実績	項目別見込み値	達成度	開放機器利用件数	3,430件	2,400件	143%	依頼試験利用件数	577件	640件	90%	計	4,007件	3,040件	132%	年度計画を十二分に達成 達成度 132%
	H28年度実績	項目別見込み値	達成度																	
開放機器利用件数	3,430件	2,400件	143%																	
依頼試験利用件数	577件	640件	90%																	
計	4,007件	3,040件	132%																	

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期目標	<p>&lt;業務運営の改善及び効率化に関する目標&gt;</p> <p>業務運営の更なる効率化に資するため、引き続き理事長のトップマネジメントのもと、運営体制や経営資源の配分について継続的に見直しを行う。</p> <p>また、企業ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応するため、職員の職能開発を計画的に実施するとともに、開かれた法人運営を一層進めることができるよう、法人のサービス業務の「見える化」を図る。</p> <p>さらに、コンプライアンスの確保や情報管理を徹底するとともに、危機管理対策の充実を図る。</p>
------	---

第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期計画	H28年度の年度計画	評価	H28年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>運営体制や経営資源配分の継続的見直し</p> <p>センター運営の一層の効率化を図るため、運営体制や経営資源の配分の在り方について調査検討を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずる。</p> <p>また、その運用状況を踏まえ適時適切な見直しを行う。</p>	<p>運営体制や経営資源配分の継続的見直し</p> <p>運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長による迅速な意思決定を行う。</p> <p>また、全体会議の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。</p> <p>さらに、経営管理部の機能を強化し、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。</p>	3	<p>主要な役職者等からなる経営委員会と、それに企業支援委員会を合体させた合同会議を、理事長が定期的に招集・開催して、経営面や企業支援サービス面の重要事項の審議を行った。</p> <p>また、全体会議として、外部講師によるハラスメント防止研修を2回、若年者と役員との座談会を3グループに分けて3回開催した。</p> <p>さらに、<u>H28年度から経営管理部の事務職員の増員(1名)【新】を実施し体制を強化した。</u>また、<u>産技センター定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、再任用制度を創設し、H28年度には2名の前年度定年退職者をシニアスタッフとして再任用し、技術相談及び産学公連携室に配置した【新】。</u></p> <p>■経営委員会 開催回数 37回</p> <p>■合同会議(経営委員会+企業支援委員会) 開催回数 5回</p> <p>■全体会議 外部講師によるハラスメント防止研修を2回実施 開催日: 5/10、5/24 参加者数: 75名 参加率 100%</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営管理部の事務職員の増員(1名)【新】</li> <li>定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、再任用制度を創設し、H28年度には2名の前年度定年退職者をシニアスタッフとして再任用【新】</li> </ul>

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	2 職員の職能開発の計画的実施

第 2 - 2 職員の職能開発の計画的実施

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																								
<p>職員の職能開発の計画的実施</p> <p>職員の業務遂行能力と意欲の向上に向け、中小企業大学校やひとづくり財団等の研修機関による研修や内部研修、大学など外部機関への研修派遣を、研修計画に基づいて体系的・計画的に実施する。また、研究成果の学会発表、論文発表、特許出願等について、職員が外部から評価を受ける機会として活用する。</p>	<p>職員の職能開発の計画的実施</p> <p>人材育成ワーキンググループの検討結果に基づき、研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業大学校（公設試験研究機関用プログラム等）</li> <li>・ひとづくり財団等の研修（能力開発研修等）</li> <li>・外部機関での技術研修</li> <li>・所内研修（新採職員研修、所内事務システム研修等）</li> <li>・中四国公設試合同研修会</li> <li>・外部講師を招聘した職員研修</li> </ul> <p>また、外部評価を利用した人材育成や職員の技術開発能力の向上のため、職員が外部から評価を受ける機会を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の学会等での外部発表や論文投稿（学会で技術的討議）</li> <li>・研究開発や技術支援で得られた成果の特許出願（実用レベルでの検証）</li> </ul>	3	<p>研修計画を策定し、計画に基づき引き続き外部機関での研修への派遣や所内研修の開催を積極的に実施した。</p> <p>H28 年度には、<u>所内研修や他機関の事業を活用【新】</u>（再掲 p.21）して、<u>研究員や事務職員の知財管理の質の向上に努めた。</u></p> <p>また、研究倫理教育のため、H27 年度から引き続き、CITI Japan プログラム e ラーニングによる研究者行動規範教育を実施し、受講予定者 18 名全員が修了証を取得した。</p> <p>①中小企業大学校等による研修への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣期間</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公設試験研究機関研究職員研修(座学)</td> <td>1名</td> <td>1/10-1/13</td> <td>中小企業大学校東京校</td> </tr> </tbody> </table> <p>②ひとづくり財団等の研修（能力開発研修等）への職員派遣</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣日</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員課程（前期）研修</td> <td>2名</td> <td>4/11～15</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主事級課程Ⅰ研修</td> <td>1名</td> <td>6/14-16</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>フルライフセミナー</td> <td>2名</td> <td>7/20</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>アサーティブ・コミュニケーション講座</td> <td>1名</td> <td>7/11</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>女性職員マネジメントスキルアップ講座受講</td> <td>1名</td> <td>8/26</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>グループリーダー課程研修</td> <td>2名</td> <td>8/30</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主事級課程Ⅱ研修</td> <td>2名</td> <td>9/6-7,9/14-15</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>ロジカルに伝える図解表現講座</td> <td>1名</td> <td>9/8</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程（後期）研修</td> <td>2名</td> <td>10/17-21</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>危機管理実務講座</td> <td>1名</td> <td>11/2</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>フォーティイ・セミナーの受講</td> <td>2名</td> <td>11/4</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先	公設試験研究機関研究職員研修(座学)	1名	1/10-1/13	中小企業大学校東京校	研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先	新規採用職員課程（前期）研修	2名	4/11～15	山口県セミナーパーク	主事級課程Ⅰ研修	1名	6/14-16	山口県セミナーパーク	フルライフセミナー	2名	7/20	山口県セミナーパーク	アサーティブ・コミュニケーション講座	1名	7/11	山口県セミナーパーク	女性職員マネジメントスキルアップ講座受講	1名	8/26	山口県セミナーパーク	グループリーダー課程研修	2名	8/30	山口県セミナーパーク	主事級課程Ⅱ研修	2名	9/6-7,9/14-15	山口県セミナーパーク	ロジカルに伝える図解表現講座	1名	9/8	山口県セミナーパーク	新規採用職員課程（後期）研修	2名	10/17-21	山口県セミナーパーク	危機管理実務講座	1名	11/2	山口県セミナーパーク	フォーティイ・セミナーの受講	2名	11/4	山口県セミナーパーク	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所内研修や他機関の事業・研修の活用【新】（再掲 p.21）による知財管理の質の向上</li> </ul>
研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先																																																									
公設試験研究機関研究職員研修(座学)	1名	1/10-1/13	中小企業大学校東京校																																																									
研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先																																																									
新規採用職員課程（前期）研修	2名	4/11～15	山口県セミナーパーク																																																									
主事級課程Ⅰ研修	1名	6/14-16	山口県セミナーパーク																																																									
フルライフセミナー	2名	7/20	山口県セミナーパーク																																																									
アサーティブ・コミュニケーション講座	1名	7/11	山口県セミナーパーク																																																									
女性職員マネジメントスキルアップ講座受講	1名	8/26	山口県セミナーパーク																																																									
グループリーダー課程研修	2名	8/30	山口県セミナーパーク																																																									
主事級課程Ⅱ研修	2名	9/6-7,9/14-15	山口県セミナーパーク																																																									
ロジカルに伝える図解表現講座	1名	9/8	山口県セミナーパーク																																																									
新規採用職員課程（後期）研修	2名	10/17-21	山口県セミナーパーク																																																									
危機管理実務講座	1名	11/2	山口県セミナーパーク																																																									
フォーティイ・セミナーの受講	2名	11/4	山口県セミナーパーク																																																									

		②ひとつづくり財団等の研修（能力開発研修等）への職員派遣（つづき）																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣日</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28 年度技術移転に関わる目利き人材育成プログラム・コーディネート応用コース(第 1,2,3 回)への参加</td> <td>1 名</td> <td>7/27-30, 9/7-9, 10/26-29</td> <td>国立研究開発法人科学技術振興機構東京本部別館</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修(新産業振興課、やまぐち産業振興財団)</td> <td>2 名</td> <td>8/2</td> <td>新産業振興課、やまぐち産業振興財団</td> </tr> <tr> <td>技術移転に係る目利き人材育成プログラム運営 地域コース研修</td> <td>1 名</td> <td>8/3</td> <td>YIC スタジオ</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修(県内企業)</td> <td>6 名</td> <td>9/2</td> <td>長州産業株</td> </tr> <tr> <td>甲種(新規)防火管理講習</td> <td>1 名</td> <td>10/27-28</td> <td>宇部・山陽小野田消防局消防訓練研修センター</td> </tr> <tr> <td>山口産業保健総合支援センターセミナー「化学物質管理」</td> <td>1 名</td> <td>11/9</td> <td>山口産業保健総合支援センター</td> </tr> <tr> <td>業務研修会(総務部・総合企画部・商工労働部・観光スポーツ文化部・会計管理局の合同研修)</td> <td>1 名</td> <td>11/8</td> <td>新産業振興課</td> </tr> <tr> <td>先進公設試での施設見学及び情報交換</td> <td>2 名</td> <td>11/11-12</td> <td>地方独立行政法人岩手県工業技術センター</td> </tr> <tr> <td>パワーハラスメント対策取組支援セミナー</td> <td>1 名</td> <td>12/12</td> <td>ゆ〜あいプラザ山口県社会福祉会館</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先	H28 年度技術移転に関わる目利き人材育成プログラム・コーディネート応用コース(第 1,2,3 回)への参加	1 名	7/27-30, 9/7-9, 10/26-29	国立研究開発法人科学技術振興機構東京本部別館	新規採用職員研修(新産業振興課、やまぐち産業振興財団)	2 名	8/2	新産業振興課、やまぐち産業振興財団	技術移転に係る目利き人材育成プログラム運営 地域コース研修	1 名	8/3	YIC スタジオ	新規採用職員研修(県内企業)	6 名	9/2	長州産業株	甲種(新規)防火管理講習	1 名	10/27-28	宇部・山陽小野田消防局消防訓練研修センター	山口産業保健総合支援センターセミナー「化学物質管理」	1 名	11/9	山口産業保健総合支援センター	業務研修会(総務部・総合企画部・商工労働部・観光スポーツ文化部・会計管理局の合同研修)	1 名	11/8	新産業振興課	先進公設試での施設見学及び情報交換	2 名	11/11-12	地方独立行政法人岩手県工業技術センター	パワーハラスメント対策取組支援セミナー	1 名	12/12	ゆ〜あいプラザ山口県社会福祉会館
研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先																																							
H28 年度技術移転に関わる目利き人材育成プログラム・コーディネート応用コース(第 1,2,3 回)への参加	1 名	7/27-30, 9/7-9, 10/26-29	国立研究開発法人科学技術振興機構東京本部別館																																							
新規採用職員研修(新産業振興課、やまぐち産業振興財団)	2 名	8/2	新産業振興課、やまぐち産業振興財団																																							
技術移転に係る目利き人材育成プログラム運営 地域コース研修	1 名	8/3	YIC スタジオ																																							
新規採用職員研修(県内企業)	6 名	9/2	長州産業株																																							
甲種(新規)防火管理講習	1 名	10/27-28	宇部・山陽小野田消防局消防訓練研修センター																																							
山口産業保健総合支援センターセミナー「化学物質管理」	1 名	11/9	山口産業保健総合支援センター																																							
業務研修会(総務部・総合企画部・商工労働部・観光スポーツ文化部・会計管理局の合同研修)	1 名	11/8	新産業振興課																																							
先進公設試での施設見学及び情報交換	2 名	11/11-12	地方独立行政法人岩手県工業技術センター																																							
パワーハラスメント対策取組支援セミナー	1 名	12/12	ゆ〜あいプラザ山口県社会福祉会館																																							
		③外部機関での技術研修																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣人数</th> <th>派遣日</th> <th>派遣先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デザイン政策研修</td> <td>1 名</td> <td>5/25-28</td> <td>経済産業省経済産業研修所</td> </tr> <tr> <td>流体力学講座-基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで-</td> <td>1 名</td> <td>5/18-20</td> <td>東京大学生産技術研究所</td> </tr> <tr> <td>特許情報検索講習会</td> <td>8 名</td> <td>8/18-19,9/13-14</td> <td>山口大学(工学部・本部)</td> </tr> <tr> <td>CQ エレクトロニクス・セミナー</td> <td>1 名</td> <td>6/18-19,3/8-10</td> <td>CQ 出版(株)</td> </tr> <tr> <td>(株)牧野フライス製作所主催テクニカルスクール FFCAM 基礎コース</td> <td>2 名</td> <td>8/2-4</td> <td>株式会社牧野フライス製作所 東京テクニカルセンター</td> </tr> <tr> <td>画像処理・認識の最適化技術(進化的画像処理・認識等)</td> <td>1 名</td> <td>8/3-5</td> <td>独立行政法人高度ポリテクセンター</td> </tr> <tr> <td>自由研削といし取替等業務特別教育</td> <td>2 名</td> <td>8/10</td> <td>(一社)山口労働基準協会</td> </tr> <tr> <td>キャピラリ GC 入門講習会</td> <td>1 名</td> <td>8/24-26</td> <td>(株)島津テクノリサーチ 試験解析事業部 AMC 部</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先	デザイン政策研修	1 名	5/25-28	経済産業省経済産業研修所	流体力学講座-基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで-	1 名	5/18-20	東京大学生産技術研究所	特許情報検索講習会	8 名	8/18-19,9/13-14	山口大学(工学部・本部)	CQ エレクトロニクス・セミナー	1 名	6/18-19,3/8-10	CQ 出版(株)	(株)牧野フライス製作所主催テクニカルスクール FFCAM 基礎コース	2 名	8/2-4	株式会社牧野フライス製作所 東京テクニカルセンター	画像処理・認識の最適化技術(進化的画像処理・認識等)	1 名	8/3-5	独立行政法人高度ポリテクセンター	自由研削といし取替等業務特別教育	2 名	8/10	(一社)山口労働基準協会	キャピラリ GC 入門講習会	1 名	8/24-26	(株)島津テクノリサーチ 試験解析事業部 AMC 部				
研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先																																							
デザイン政策研修	1 名	5/25-28	経済産業省経済産業研修所																																							
流体力学講座-基礎学理から数値流体力学・流体計測の基礎と実例まで-	1 名	5/18-20	東京大学生産技術研究所																																							
特許情報検索講習会	8 名	8/18-19,9/13-14	山口大学(工学部・本部)																																							
CQ エレクトロニクス・セミナー	1 名	6/18-19,3/8-10	CQ 出版(株)																																							
(株)牧野フライス製作所主催テクニカルスクール FFCAM 基礎コース	2 名	8/2-4	株式会社牧野フライス製作所 東京テクニカルセンター																																							
画像処理・認識の最適化技術(進化的画像処理・認識等)	1 名	8/3-5	独立行政法人高度ポリテクセンター																																							
自由研削といし取替等業務特別教育	2 名	8/10	(一社)山口労働基準協会																																							
キャピラリ GC 入門講習会	1 名	8/24-26	(株)島津テクノリサーチ 試験解析事業部 AMC 部																																							

③外部機関での技術研修（つづき）

研修テーマ	派遣人数	派遣日	派遣先
制振材料の動特性試験法・評価法およびシミュレーションに関する技術講習会	1名	9/8-9	エッサム神田ホール2号館
清酒官能評価セミナー	1名	9/13	独立行政法人酒類総合研究所
(株)システムクリエイト主催 Mastercam 初期講習会	1名	9/13-16	(株)システムクリエイト 西部事業所
食品衛生検査セミナー	1名	10/7	TKP 博多駅前シティセンター
標準化セミナー	2名	11/12,19	山口大学工学部
金属積層造形技術入門セミナー	1名	11/14	ワークピア広島
白米中無機元素分析の技能試験(ICPによる微量元素分析)に係る技術講習会	1名	1/24	すみだ産業会館
機械学習を用いたパターン認識の基本と性能予測/性能比較手法と事例解説	1名	2/23-24	オームビル

④所内研修（新採職員研修、所内事務システム研修等）

新規採用職員については、採用後速やかに所内システム、待遇等に関する説明会を開催した。

研修名	内容	開催日
新規採用職員研修	オリエンテーション、所内システム等	4/6
	・情報収集・発信及び競争的資金獲得 ・イノベーション推進センターについて	12/2

⑤中四国公設試合同研修会への職員派遣

研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先
中国四国地域公設試験研究機関研究者合同研修会	2名	9/29-30	海峡メッセ下関

⑥外部講師を招聘した職員研修

研修テーマ	派遣人数	派遣期間	講師
ハラスメント防止研修	75名	5/10,5/24	新産業振興課
研究開発における有効な特許調査手法について（第1回目）【新】（再掲p.21）	6名	11/24	山口大学 木村友久教授
研究開発における有効な特許調査手法について（第2回目）【新】（再掲p.21）	6名	2/28	山口大学 木村友久教授

⑦学協会等への発表及び特許等出願

内容	件数
誌上発表	5件
口頭発表	27件
特許等出願	2件

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	3 法人サービス業務の「見える化」の推進

第 2 - 3 法人サービス業務の「見える化」の推進

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等												
見える化の推進 センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」を策定し広く周知する。 また、サービス内容を紹介するパンフレットや成果事例集の発刊、成果発表会の開催、ホームページへの掲載等を適時適切に行えるよう、その内容・方法について継続的に見直しを行う。	見える化の推進 策定した第 2 期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、ホームページの機能強化、パンフレットの発刊や成果事例集の発刊と充実、成果発表会の開催、県内・県外イベント等での PR 活動、施設見学の誘致等を行う。 また、エントランスホールに、本県産業の現状と歴史が学べるコーナーとして、一定期間センター内外に公開展示すると共に、沿革年表を企業に配布する。	3	センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」(ロードマップ)(H26策定)の冊子を県内企業に配布した。 県内企業で事業化・商品化が行われた事例については、定期的に成果事例集に加え、速やかにホームページに掲載し、周知した。 研究成果の普及を目的として、巡回技術報告会や技術発表会を前年度に継続して実施した。 また、県内外のイベントに出展して、センターの研究開発・技術支援の取組を PR した。 前年度に引き続き、依頼試験・開放機器の見える化を図るため、機器活用事例を作成し、ホームページに公開するとともにパネル化して機器設置場所に掲示した(再掲 p.42)。 県内で企業数の多い食品関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレットの作成・配布【新】(再掲 p.42)を行った。 本県工業の現状と歴史が学べるコーナーとして、やまぐち総合ビジネスメッセ 2016 及び産業技術センター技術発表会においてパネルを公開展示すると共に、「山口県工業の沿革年表」を企業等に配布した【新】。 JAXA 機能移転に伴う周辺環境整備事業に関連して、JAXA 展示コーナーを設置すると共に、展示コーナーの全体的な見直しを行った【新】。 ■ 刊行物の発行状況(再掲 p.20) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>センターパンフレット</td> <td>2,000部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>開放機器一覧 2016</td> <td>1,000部</td> </tr> <tr> <td>技術戦略—第 2 期—</td> <td>500部</td> </tr> <tr> <td>山口県工業の沿革年表</td> <td>1,000部</td> </tr> </table>	センターパンフレット	2,000部	業務報告書	600部	研究報告書	600部	開放機器一覧 2016	1,000部	技術戦略—第 2 期—	500部	山口県工業の沿革年表	1,000部	年度計画を概ね達成 ・山口県工業の歴史が学べるコーナーの公開展示及び「山口県工業の沿革年表」の配布【新】 ・食品関連企業を対象としたパンフレットの作成・配布【新】 ・JAXA 展示コーナーの新設及び展示コーナー全体の見直し【新】
センターパンフレット	2,000部															
業務報告書	600部															
研究報告書	600部															
開放機器一覧 2016	1,000部															
技術戦略—第 2 期—	500部															
山口県工業の沿革年表	1,000部															

■食品関連パンフレット（調味料メーカー向け）（再掲p.42）  
 県内調味料メーカー78社に配布。

■広告等掲載

機関誌「やまぐちの労働」広告掲載	広告掲載
日刊工業新聞 理事長インタビュー	取組記事掲載
日刊工業新聞 広告掲載	広告掲載

■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況（再掲p.20）

名称	開催日	参加者数
巡回技術報告会	5/24	33名
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/30	29名
技術発表会	3/14	49名

■県内・県外イベント等でのPR活動状況

①県内

展示会等の名称	場所	展示内容	日程
第9回山口県しんきん合同ビジネスフェア	海峡メッセ下関	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	5/18
やまぐち総合ビジネスメッセ2016	麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター	・技術支援成果内容 ・技術相談対応 ・山口県の工業の沿革の展示・配布	10/28-29
デザインプラザ HOFU じばさんフェア 2016「ふるさと企業展示会」	山口・防府地域工芸・地場産業振興センター	3Dプリンター展示・実演	11/12-13
県立博物館「昆虫のふしぎな世界」	山口県立山口博物館	・ぶつからないロボット BR23Cの展示 ・科学技術教室の共同実施	7/26-8/24
地域資源を活用した「商品力向上セミナー」	①柳井クルーズホテル ②セントコア山口 ③美祢グランドホテル	・食品成分分析・加工技術等についての説明 ・技術相談	3/6,3/10,3/13



		<p>②県外</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>展示会等の名称</th> <th>場所</th> <th>展示内容</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>函館鯨フェスティバル</td> <td>函館市国際水産・海洋総合研究センター</td> <td>北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援</td> <td>6/5</td> </tr> <tr> <td>HOSPEX Japan 2016</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援（医療関連）</td> <td>10/26-28</td> </tr> <tr> <td>新価値創造展 2016(中小企業総合展)</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>サポイン事業成果（萩ガラス工房(有)、広島企業(株)）</td> <td>10/31-11/2</td> </tr> <tr> <td>医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷</td> <td>医科器械会館</td> <td>ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 22 社が出展・商談を実施</td> <td>10/13</td> </tr> <tr> <td>やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会</td> <td>ホテルかめ福</td> <td>パネル展示（2 枚）：味覚センサーを用いた食品活用事例、南極海産クロミンク鯨油を利用した商品化支援</td> <td>1/17</td> </tr> <tr> <td>nano tech 2017</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展（環境・エネルギー関連）</td> <td>2/15-17</td> </tr> </tbody> </table> <p>■科学技術教室など、一般を対象とした法人の地域貢献活動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称及び内容</th> <th>日程</th> <th>場所</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏休みジュニア科学教室「プリンター印刷のしくみと蛍光トナーを用いた 3D 紙芝居の作成」</td> <td>8/25</td> <td>産業技術センター</td> <td>16 名</td> </tr> <tr> <td>県立博物館「昆虫のふしぎな世界」(再掲 p.54) ・ぶつからないロボット BR23C の展示 ・科学技術教室の共同実施</td> <td>7/26-8/24</td> <td>山口県立山口博物館</td> <td>15 名/回 ×3 回</td> </tr> <tr> <td>第 14 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー</td> <td>11/12-13</td> <td>下関競艇場</td> <td>約 100 名/日</td> </tr> </tbody> </table>	展示会等の名称	場所	展示内容	日程	函館鯨フェスティバル	函館市国際水産・海洋総合研究センター	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	6/5	HOSPEX Japan 2016	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援（医療関連）	10/26-28	新価値創造展 2016(中小企業総合展)	東京ビッグサイト	サポイン事業成果（萩ガラス工房(有)、広島企業(株)）	10/31-11/2	医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷	医科器械会館	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 22 社が出展・商談を実施	10/13	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会	ホテルかめ福	パネル展示（2 枚）：味覚センサーを用いた食品活用事例、南極海産クロミンク鯨油を利用した商品化支援	1/17	nano tech 2017	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展（環境・エネルギー関連）	2/15-17	名称及び内容	日程	場所	参加者数	夏休みジュニア科学教室「プリンター印刷のしくみと蛍光トナーを用いた 3D 紙芝居の作成」	8/25	産業技術センター	16 名	県立博物館「昆虫のふしぎな世界」(再掲 p.54) ・ぶつからないロボット BR23C の展示 ・科学技術教室の共同実施	7/26-8/24	山口県立山口博物館	15 名/回 ×3 回	第 14 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー	11/12-13	下関競艇場	約 100 名/日
展示会等の名称	場所	展示内容	日程																																											
函館鯨フェスティバル	函館市国際水産・海洋総合研究センター	北海道産ツチクジラ油を利用した化粧石けんの商品化支援	6/5																																											
HOSPEX Japan 2016	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援（医療関連）	10/26-28																																											
新価値創造展 2016(中小企業総合展)	東京ビッグサイト	サポイン事業成果（萩ガラス工房(有)、広島企業(株)）	10/31-11/2																																											
医療機器メーカー向け展示・商談会 in 本郷	医科器械会館	ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業におけるコンソーシアム構成企業 26 社のうち 22 社が出展・商談を実施	10/13																																											
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会	ホテルかめ福	パネル展示（2 枚）：味覚センサーを用いた食品活用事例、南極海産クロミンク鯨油を利用した商品化支援	1/17																																											
nano tech 2017	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展（環境・エネルギー関連）	2/15-17																																											
名称及び内容	日程	場所	参加者数																																											
夏休みジュニア科学教室「プリンター印刷のしくみと蛍光トナーを用いた 3D 紙芝居の作成」	8/25	産業技術センター	16 名																																											
県立博物館「昆虫のふしぎな世界」(再掲 p.54) ・ぶつからないロボット BR23C の展示 ・科学技術教室の共同実施	7/26-8/24	山口県立山口博物館	15 名/回 ×3 回																																											
第 14 回長府企業フェスタ ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー	11/12-13	下関競艇場	約 100 名/日																																											

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	4 コンプライアンスの確保

第 2 - 4 コンプライアンスの確保

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等						
<p>コンプライアンスの確保</p> <p>労働安全衛生法等の法令遵守や、職員倫理の確保に資する仕組みを適切に運用するとともに、コンプライアンスの確保を徹底するための職員教育を継続的に実施する。</p>	<p>コンプライアンスの確保</p> <p>労働安全衛生法等の法規制や職員倫理に関する職員教育に適宜外部講師を活用する等して、実効性ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。</p>	3	<p>合同会議や所内メール等において個別の法令遵守等について周知徹底を図るとともに、特にハラスメントについては、組合と連携してアンケートを実施した。また外部講師によるハラスメント防止研修を2回実施した（再掲 p.52）。</p> <p>研究倫理については、前年度に引き続き、CITI Japanプログラムeラーニングによる研究者行動規範教育を実施した（再掲 p.50）。</p> <p>また、衛生管理者等の法令に基づく管理者・主任者等により、それぞれの業務を精査するとともに、化学物質のリスクアセスメント（労働安全衛生法の改正）に関する対応を検討した。</p> <p>■ハラスメント防止研修会の開催状況（再掲 p.52）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハラスメント防止研修</td> <td>5/10, 5/24</td> <td>75名(参加率100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>■研究者倫理（再掲 p.50）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CITI Japanプログラムeラーニングによる研究者行動規範教育を実施。</li> </ul>	研修テーマ	開催日	参加者数	ハラスメント防止研修	5/10, 5/24	75名(参加率100%)	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来通りの取組を実施</li> </ul>
研修テーマ	開催日	参加者数								
ハラスメント防止研修	5/10, 5/24	75名(参加率100%)								

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	5 情報管理の徹底

第2-5 情報管理の徹底

中期計画	H28年度の年度計画	評価	H28年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>情報管理の徹底</p> <p>個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のために必要な措置を講じる。</p>	<p>情報管理の徹底</p> <p>個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、新規採用職員を対象とした職員教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。</p> <p>また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図るとともに、利用者に向けた取組の見える化を図る。</p>	3	<p>新規採用職員を対象に職員教育を実施した。</p> <p>また、ネットワーク実務担当者により以下のような情報セキュリティに対する職員への指示・伝達を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Windows等ソフトウェアのアップデートによる欠陥プログラム修正</li> <li>・不審な添付ファイルを開かない旨の警告</li> <li>・サーバー内の不要ファイルの削除</li> </ul> <p><u>事務用パーソナルコンピュータ（以下、PC）のオペレーティングシステム（以下、OS）をWindows10にアップデートした【新】。</u></p> <p>また、コンピュータによる情報漏洩防止の対策強化のため、<u>情報セキュリティ対策チームを立ち上げ、規程・セキュリティポリシーの見直しの方向性を検討した【新】。</u></p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務用PCのOSをWindows10にアップデート【新】</li> <li>・情報セキュリティ対策チームを立ち上げ、規程・セキュリティポリシーの見直しの方向性検討【新】</li> </ul>

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	6 危機管理対策の推進

第2-6 危機管理対策の推進

中期計画	H28年度の年度計画	評価	H28年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>危機管理対策の推進</p> <p>特定の災害と被害の想定のもと、優先業務の継続・復旧、被災企業の支援に関する取組を盛り込んだ「業務継続計画」（BCP）を策定し、適切に運用する。</p>	<p>危機管理対策の推進</p> <p>策定した「業務継続計画」（BCP）の職員への周知徹底を図り、災害を想定した研修を実施する。</p>	3	<p>災害時の職員・外来者の安否確認方法について周知し、自衛消防訓練に併せて、その検証を行った。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p>

大項目	第 3 財務内容の改善に関する事項
中項目	1 自己収入の確保

中 期 目 標	<p>&lt;財務内容の改善に関する目標&gt; 外部資金の獲得などに積極的に取り組み、自主財源の確保を図る。また、経費の支出については、可能な限り抑制に努める。</p>
------------------	---

第 3 - 1 自己収入の確保

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																								
<p>自己収入の確保</p> <p>機器整備や研究に係る国等の外部資金の獲得や、機器・施設の開放、知的財産権の使用許諾等を推進し、運営費交付金以外の収入の確保に努める。</p>	<p>自己収入の確保</p> <p>機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、使用料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進や知的財産権の使用許諾等の推進、施設等の有効利用による収入の確保等による収入の確保に努める。</p>	4	<p>機器整備に係る補助事業 (2 機種) (再掲 p.42) や研究開発に係る競争的資金の獲得 (7 件) (再掲 p.26) に努めるとともに、イノベーションを推進するために外部資金 (地域イノベーション戦略プログラム、ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業) を活用した。</p> <p>また、開放機器や施設などの使用料、依頼試験の手数料、受託研究及び知的財産の使用許諾による実施料などにより自己収入の確保に努めた。特に、<u>H21年度以降、オーダーメイド試験の割合が年々増加して依頼試験全体の利用金額が増え、H28年度は過去最高【新】</u> (再掲p.45) となった。また、新たに導入した機器についても、速やかに開放機器化して機器利用収入の拡大を図った。</p> <p>■機器整備に係る補助事業の獲得状況 2件 (再掲p.42)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>機器名</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金</td> <td>ガスクロマトグラフ</td> <td style="text-align: right;">7,613,280 円</td> </tr> <tr> <td>小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金</td> <td>電磁干渉試験機</td> <td style="text-align: right;">11,582,640 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>■研究開発に係る競争的資金の獲得 7件 (再掲p.26)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)</td> <td style="text-align: center;">1 件</td> <td style="text-align: right;">30,743,337 円</td> </tr> <tr> <td>革新的技術開発・緊急展開事業</td> <td style="text-align: center;">4 件</td> <td style="text-align: right;">3,441,000 円</td> </tr> <tr> <td>JST マッチングプランナー</td> <td style="text-align: center;">1 件</td> <td style="text-align: right;">718,770 円</td> </tr> <tr> <td>やまぎん助成基金</td> <td style="text-align: center;">1 件</td> <td style="text-align: right;">1,000,000 円</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	機器名	補助額	小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金	ガスクロマトグラフ	7,613,280 円	小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金	電磁干渉試験機	11,582,640 円	提案公募名	獲得件数	補助額	戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	1 件	30,743,337 円	革新的技術開発・緊急展開事業	4 件	3,441,000 円	JST マッチングプランナー	1 件	718,770 円	やまぎん助成基金	1 件	1,000,000 円	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器整備や研究開発に係る競争的資金の獲得 (機器整備: 2 機種、研究開発: 7 件)</li> <li>・イノベーション推進への外部資金の活用</li> <li>・使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料等による自己収入の確保</li> <li>・依頼試験手数料が過去最高【新】 (再掲 p.45)</li> </ul>
事業名	機器名	補助額																										
小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金	ガスクロマトグラフ	7,613,280 円																										
小型自動車等機械工業振興事業 (JKA)補助金	電磁干渉試験機	11,582,640 円																										
提案公募名	獲得件数	補助額																										
戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン)	1 件	30,743,337 円																										
革新的技術開発・緊急展開事業	4 件	3,441,000 円																										
JST マッチングプランナー	1 件	718,770 円																										
やまぎん助成基金	1 件	1,000,000 円																										

		<p>■知財の実施許諾による収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施許諾</td> <td>11,224 千円</td> <td>12,048 千円</td> <td>11,928 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>■地域イノベーション戦略支援プログラム（文部科学省）（再掲p.10）</p> <table border="1"> <tr> <td>38,803,545 円</td> </tr> </table> <p>■ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業（中小企業基盤整備機構）（再掲p.10）</p> <table border="1"> <tr> <td>7,912,095 円</td> </tr> </table> <p>■技術支援サービスによる自己収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放機器</td> <td>20,629 千円</td> <td>20,078 千円</td> <td>20,482 千円</td> </tr> <tr> <td>依頼試験手数料</td> <td>8,840 千円 (内 O.M.* 3,164 千円)</td> <td>10,688 千円 (内 O.M.* 5,777 千円)</td> <td>13,446 千円 (内 O.M.* 8,780 千円)</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>2,171 千円</td> <td>3,797 千円</td> <td>3,314 千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>* O.M.:オーダーメイド試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開放機器使用料の状況(再掲 p.45) 過去最高使用件数のH27年度の使用料収入を上回った。</li> <li>・依頼試験手数料の状況(再掲p.45-46) オーダーメイド試験の割合が増加し、利用金額が過去最高となった【新】。</li> </ul> <p>■その他自己収入 自動販売機については、公募制とし、売上手数料を得ることで、自己収入の確保を行った。 H28 年度実績 341,035 円</p>	項目	H26	H27	H28	実施許諾	11,224 千円	12,048 千円	11,928 千円	38,803,545 円	7,912,095 円	項目	H26	H27	H28	開放機器	20,629 千円	20,078 千円	20,482 千円	依頼試験手数料	8,840 千円 (内 O.M.* 3,164 千円)	10,688 千円 (内 O.M.* 5,777 千円)	13,446 千円 (内 O.M.* 8,780 千円)	受託研究	2,171 千円	3,797 千円	3,314 千円
項目	H26	H27	H28																									
実施許諾	11,224 千円	12,048 千円	11,928 千円																									
38,803,545 円																												
7,912,095 円																												
項目	H26	H27	H28																									
開放機器	20,629 千円	20,078 千円	20,482 千円																									
依頼試験手数料	8,840 千円 (内 O.M.* 3,164 千円)	10,688 千円 (内 O.M.* 5,777 千円)	13,446 千円 (内 O.M.* 8,780 千円)																									
受託研究	2,171 千円	3,797 千円	3,314 千円																									

大項目	第3 財務内容の改善に関する事項
中項目	2 経費の抑制

第3-2 経費の抑制

中期計画	H28年度の年度計画	評価	H28年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
経費の抑制 経費の効率的使用の観点から、予算の配分や執行管理の方法について見直しを行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。	経費の抑制 経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき運用する。 また、一般的な管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。	3	<p>予算編成において、事業費の積上と前年度事業費を勘案して予算配分の減額抑制を図るとともに、より厳格な積算を行い、厳密かつ効果的な予算配分に努めた。また、上半期終了後に予算執行状況の集計を実施し、執行管理に努めるとともに、その結果に基づき予算の再配分を行うことで、効果的な予算執行に努めた。</p> <p>また、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務等の精査を行うことに加え、物品購入等における仕様精査等による価格の縮減、旅費等の精査による縮減など、比較的規模の小さな経費まで精査し、経費の縮減に努めた。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来通りの取組を実施</li> </ul>

大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	1 施設設備の適切な管理

中 期 目 標	<p>&lt;施設設備の適切な管理に関する目標&gt; 施設設備が効果的・効率的に活用されるよう、その維持管理を適切に行うとともに、計画的な整備に努める。</p>
------------------	---

第 4 - 1 施設設備の適切な管理

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																			
<p>施設設備の適切な管理</p> <p>安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が良好な状況に保たれるよう、保守点検、修繕等を計画的に行う。</p> <p>また、施設等の利活用状況を適時把握し、効率的・効果的な利活用の観点から、運用方法の改善や有効活用策等の検討を定期的に行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>施設設備の適切な管理</p> <p>施設設備について、利用者の要望を反映させる仕組みの試行結果に基づき、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新（計画の作成、実施予算の確保等）、管理システムの運用（開放機器・依頼試験・会議室等予約システム）を行うとともに、昨年度整理した今後必要となる施設の大規模修繕・改修箇所について、修繕・改修に向けた対応を検討する。</p> <p>また、施設等の利活用状況を把握し、ひとづくり財団、やまぐち産業振興財団、商工会議所、経営者協会、工業系学校・大学等関係団体への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。</p>	3	<p>■施設・設備の保守点検、修繕などの取組状況</p> <p>施設利用者の要望を反映させる仕組みとして利用者アンケートを実施した結果において、保守・修繕に関する要望はなかった。また、施設利用の手続き、設備の使いやすさ、職員の対応、総合的な満足度において、5段階評価で4以上であった。</p> <p>施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めた。</p> <p>また、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配慮した。</p> <p>&lt;施設利用に関するアンケート結果&gt; アンケート回収枚数：17 枚</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項 目</th> <th>評価(平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">利用する際の手続きや申し込み方法</td> <td style="text-align: center;">4.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">設備の使いやすさ</td> <td>空調設備</td> <td style="text-align: center;">4.3</td> </tr> <tr> <td>音響設備</td> <td style="text-align: center;">4.2</td> </tr> <tr> <td>映像設備(プロジェクタ等)</td> <td style="text-align: center;">4.1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">職員の対応</td> <td style="text-align: center;">4.4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合的な満足度</td> <td style="text-align: center;">4.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価は、1～5までの5段階評価</p>	項 目		評価(平均)	利用する際の手続きや申し込み方法		4.5	設備の使いやすさ	空調設備	4.3	音響設備	4.2	映像設備(プロジェクタ等)	4.1	職員の対応		4.4	総合的な満足度		4.5	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・JAXA 西日本衛星防災利用研究センター開所式を開催後、一定期間、展示コーナーの土日一般開放を行った【新】</p>
項 目		評価(平均)																					
利用する際の手続きや申し込み方法		4.5																					
設備の使いやすさ	空調設備	4.3																					
	音響設備	4.2																					
	映像設備(プロジェクタ等)	4.1																					
職員の対応		4.4																					
総合的な満足度		4.5																					

		<p>■施設の利用促進 施設の利活用促進については、ひとづくり財団、やまぐち産業振興財団、工業系学校・大学、金融機関等へ働きかけを行うことにより、宇部コンベンション協会主催の産業観光、一般社団法人山口県計量協会、宇部工業高等学校、下関西高等学校、大津緑洋高等学校、県立大学主催の桜の森アカデミー講座、山口大学農学部等の見学受入の成果を上げた。 またJAXA西日本衛星防災利用研究センター開所式を開催後、一定期間、展示コーナーの土日一般開放を行った【新】。</p> <p>■JAXA関連来庁者</p> <table border="1" data-bbox="1448 674 2175 764"> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>3月</td> </tr> <tr> <td>来庁者(組)</td> <td>128人(49組)</td> <td>136人(48組)</td> </tr> </table>		2月	3月	来庁者(組)	128人(49組)	136人(48組)																																																																					
	2月	3月																																																																											
来庁者(組)	128人(49組)	136人(48組)																																																																											
<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数の5年間合計 55,000人</p> <p>(注) 来庁者 施設利用者、見学者及び外来受付者の合計をいう。</p>	<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数</p> <p>年間 11,000人</p>	<p>4 (数値目標) 中期計画期間中の来庁者数 12,713人 ※内訳 施設利用：4,739人(施設利用+見学) (H27：4,830人) 外来受付：7,974人 (H27：6,969人) → 会議等：+621、受付簿来所者：+443(内JAXA264人)</p> <p>■月別来庁者の推移</p> <table border="1" data-bbox="1427 1010 2353 1236"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設利用者</td> <td>212人</td> <td>210人</td> <td>75人</td> <td>430人</td> </tr> <tr> <td>見学者</td> <td>71人</td> <td>141人</td> <td>184人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>外来受付者</td> <td>541人</td> <td>447人</td> <td>664人</td> <td>703人</td> </tr> <tr> <td>月別合計</td> <td>824人</td> <td>798人</td> <td>923人</td> <td>1,136人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1427 1283 2353 1514"> <thead> <tr> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>635人</td> <td>208人</td> <td>484人</td> <td>546人</td> <td>436人</td> </tr> <tr> <td>14人</td> <td>81人</td> <td>66人</td> <td>89人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>613人</td> <td>643人</td> <td>533人</td> <td>750人</td> <td>671人</td> </tr> <tr> <td>1,262人</td> <td>932人</td> <td>1,083人</td> <td>1,385人</td> <td>1,109人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1427 1560 2353 1839"> <thead> <tr> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>111人</td> <td>456人</td> <td>230人</td> <td>4,033人</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>52人</td> <td>3人</td> <td>706人</td> </tr> <tr> <td>633人</td> <td>969人</td> <td>807人</td> <td>7,974人</td> </tr> <tr> <td>744人</td> <td>1,477人</td> <td>1,040人</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>12,713人</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	施設利用者	212人	210人	75人	430人	見学者	71人	141人	184人	3人	外来受付者	541人	447人	664人	703人	月別合計	824人	798人	923人	1,136人	8月	9月	10月	11月	12月	635人	208人	484人	546人	436人	14人	81人	66人	89人	2人	613人	643人	533人	750人	671人	1,262人	932人	1,083人	1,385人	1,109人	1月	2月	3月	計	111人	456人	230人	4,033人	0人	52人	3人	706人	633人	969人	807人	7,974人	744人	1,477人	1,040人		合計			12,713人	<p>年度計画を十分達成 達成度 115%</p> <p>※会議等、受付簿来所者の増加</p>
	4月	5月	6月	7月																																																																									
施設利用者	212人	210人	75人	430人																																																																									
見学者	71人	141人	184人	3人																																																																									
外来受付者	541人	447人	664人	703人																																																																									
月別合計	824人	798人	923人	1,136人																																																																									
8月	9月	10月	11月	12月																																																																									
635人	208人	484人	546人	436人																																																																									
14人	81人	66人	89人	2人																																																																									
613人	643人	533人	750人	671人																																																																									
1,262人	932人	1,083人	1,385人	1,109人																																																																									
1月	2月	3月	計																																																																										
111人	456人	230人	4,033人																																																																										
0人	52人	3人	706人																																																																										
633人	969人	807人	7,974人																																																																										
744人	1,477人	1,040人																																																																											
合計			12,713人																																																																										



大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	2 環境負荷の低減

中 期 目 標	<p>&lt;環境負荷の低減に関する目標&gt; 業務運営に伴う環境負荷を低減するための取組を適切に実施する。</p>
------------------	---

第 4 - 2 環境負荷の低減

中期計画	H28 年度の年度計画	評価	H28 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																								
<p>環境負荷の低減</p> <p>省エネルギーや廃棄物の適正な処理など、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>環境負荷の低減</p> <p>省エネルギーや廃棄物の適正な処理等、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	3	<p>環境負荷の低減に向けた環境マネジメントシステム ISO14001 に準じた取組を継続しており、省エネ・省資源、コピー用紙の裏面や封筒の再利用、トナーカートリッジ、インクカートリッジの回収、ゴミの分別収集による古紙などの再資化、グリーン購入などに取り組んでいる。また、引き続き電力については、玄関ロビーに設置した電力モニターや Web 画面で電力使用量を「見える化」することにより省エネ行動喚起を図っている。</p> <p>■電力、水道水、ガスの使用状況および廃棄物の排出状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23 年度</th> <th>H24 年度</th> <th>H25 年度</th> <th>H26 年度</th> <th>H27 年度</th> <th>H28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コピー用紙 (枚)</td> <td>591,000</td> <td>563,750</td> <td>629,500</td> <td>627,000</td> <td>574,000</td> <td>588,000</td> </tr> <tr> <td>使用電力量 (MWh)</td> <td>1,986</td> <td>2,150</td> <td>2,257</td> <td>2,243</td> <td>2,345</td> <td>2,446</td> </tr> <tr> <td>水道水 (m<sup>3</sup>)</td> <td>4,387</td> <td>4,028</td> <td>3,919</td> <td>2,958</td> <td>3,014</td> <td>3,154</td> </tr> <tr> <td>プロパンガス(m<sup>3</sup>)</td> <td>5,768</td> <td>5,799</td> <td>6,573</td> <td>7,126</td> <td>6,258</td> <td>6,895</td> </tr> <tr> <td>A 重油 (L)</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>90</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>廃棄物(kg)</td> <td>6,530</td> <td>4,903</td> <td>7,541</td> <td>7,290</td> <td>5,747</td> <td>7,991</td> </tr> <tr> <td>特別管理廃棄物</td> <td>625</td> <td>607</td> <td>1,059</td> <td>1,121</td> <td>905</td> <td>1,217</td> </tr> </tbody> </table>		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	コピー用紙 (枚)	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000	使用電力量 (MWh)	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446	水道水 (m <sup>3</sup> )	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154	プロパンガス(m <sup>3</sup> )	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895	A 重油 (L)	20	30	30	90	20	30	廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991	特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来通りの取組を実施</li> </ul>
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度																																																						
コピー用紙 (枚)	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000																																																						
使用電力量 (MWh)	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446																																																						
水道水 (m <sup>3</sup> )	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154																																																						
プロパンガス(m <sup>3</sup> )	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895																																																						
A 重油 (L)	20	30	30	90	20	30																																																						
廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991																																																						
特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217																																																						

■ グリーン購入の実施状況

	グリーン購入率					
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
用紙類	98.2%	99.7%	99.5%	98.2%	99.0%	98.0%
文具等	72.4%	78.5%	82.9%	78.0%	80.5%	89.2%
器具什器	100%	100%	86.9%	68.9%	100%	96.7%
作業服等	—	99.5%	99.8%	100%	100%	100%
合計	90.7%	94.0%	90.9%	88.0%	93.9%	95.8%

注) グリーン購入率は、購入金額ベースのもの

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	1 予算

中期計画		H28年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
収入		収入				
運営費交付金等	3,190	運営費交付金等	645	645	0	
自己収入	1,032	自己収入	209	286	77	
使用料・手数料	147	使用料・手数料	29	38	9	
特許実施料	33	特許実施料	3	12	9	
研究費等	673	研究費等	120	157	37	
補助金等収入	175	補助金等収入	55	78	23	
その他収入	4	その他収入	1	1	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩	61	前年度からの繰越金	0	0	0	
計	4,284	前中期目標期間繰越積立金取崩	0	25	25	
		計	854	956	102	
支出		支出				
業務費	944	業務費	188	253	65	*「業務費」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等により事業費が増加したことによるものです。
人件費	2,506	人件費	497	492	▲5	
一般管理費	544	一般管理費	127	121	▲7	
施設費	290	施設費	42	74	32	
計	4,284	計	854	940	86	
(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
【人件費の見積り】						
中期目標期間中、総額2,506百万円を支出する。						
※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。						

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	2 収支計画

中期計画		H28年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
費用の部	4,438	費用の部	913	948	35	*「業務費」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等により事業費が増加したことによるものです。
經常経費	4,373	經常経費	900	948	48	
業務費	1,286	業務費	268	330	62	
人件費	2,506	人件費	497	492	▲5	
管理運営費	575	管理運営費	133	126	▲8	
財務費用	5	財務費用	1	0	▲1	
雑損	0	雑損	0	0	0	
臨時損失	66	臨時損失	13	0	▲13	
収入の部	4,438	収入の部	913	949	36	
經常収益	4,373	經常収益	900	949	49	
運営費交付金収益	3,045	運営費交付金収益	619	614	▲5	
使用料・手数料収益	147	使用料・手数料収益	29	38	9	
特許実施料	33	特許実施料	3	12	9	
研究事業等収益	673	研究事業等収益	120	148	28	
補助金等収益	30	補助金等収益	39	40	1	
施設費収益	0	施設費収益	0	4	4	
その他収益	4	その他収益	1	1	0	
資産見返運営費交付金等戻入	440	資産見返運営費交付金等戻入	29	14	▲15	
臨時利益	66	資産見返補助金等戻入	40	74	34	
当期純利益	▲61	資産見返寄附金戻入	3	3	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩益	61	資産見返物品受贈額戻入	17	0	▲17	
純利益	0	臨時利益	13	0	▲13	
		当期純利益	0	1	1	
		目的積立金取崩額	0	16	16	
		純利益	0	17	17	

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主要因を記載する

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	3 資金計画

中期計画		H28年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
資金支出	4,284	資金支出	854	1,020	166	*「業務活動による支出」の増の主たる要因は、年度途中での補助事業採択等により事業費が増加したことによるものです。
業務活動による支出	3,989	業務活動による支出	811	923	112	
投資活動による支出	290	投資活動による支出	42	97	55	
財務活動による支出	5	財務活動による支出	1	0	▲1	
次期中期目標期間への繰越金	0	次期中期目標期間への繰越金	0	0	0	
資金収入	4,284	資金収入	854	895	41	
業務活動による収入	3,947	業務活動による収入	812	823	11	
運営費交付金による収入	3,060	運営費交付金による収入	619	619	0	
使用料・手数料収入	147	使用料・手数料収入	29	38	9	
特許実施料	33	特許実施料	3	12	9	
研究費等による収入	673	研究費等による収入	120	114	▲6	
補助金等による収入	30	補助金等による収入	39	39	0	
その他の収入	4	その他の収入	1	1	0	
投資活動による収入	275	投資活動による収入	42	72	30	
財務活動による収入	0	財務活動による収入	0	0	0	
前期中期目標期間からの繰越金	61	前期中期目標期間からの繰越金	0	0	0	

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第6 短期借入金の限度額
-----	--------------

中期計画	H28年度の年度計画	左の実績	特記事項
3億5千万円	3億5千万円	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
-----	---

中期計画	H28年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
-----	-------------------------

中期計画	H28年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第9 剰余金の使途
-----	-----------

中期計画	H28年度の年度計画	左の実績	特記事項
決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	試験研究の質の向上(技術職員研修:0.2百万円)に充当した。	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第10 法第40条第4項の承認を受けた金額の使途
-----	--------------------------

中期計画	H28年度の年度計画	左の実績	特記事項
前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	試験研究の質の向上(3Dプリンターを活用したものづくり研究の推進:4百万円)及び施設設備の改善(機器整備:21百万円)に充当した。	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

#### IV その他法人の現況に関する事項

##### 1 地域別企業支援状況 (H28 年度)

種 別 項 目		地 域 別						合 計
		岩柳地域	周南地域	県央地域	西部地域	北部地域	県 外	
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	422 (23)	528 (100)	908 (59)	1,911 (108)	114 (11)	418 (1)	4,301 (302)
	外部紹介 (うち訪問等)	3 (0)	8 (0)	9 (1)	13 (1)	0 (0)	3 (0)	36 (2)
計 (実利用者数)		425 (99)	536 (179)	917 (219)	1,924 (500)	114 (59)	421 (193)	4,337 (1,249)
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	40 (108)	79 (254)	91 (250)	209 (767)	28 (87)	85 (126)	532 (1,592)
	うち企業 (訪問回数)	38 (104)	76 (246)	73 (195)	168 (397)	20 (67)	48 (78)	423 (1,087)
	うち新規 (訪問回数)	4 (8)	9 (10)	12 (22)	25 (46)	3 (3)	1 (1)	54 (90)
開放機器利用	件数 (実利用者数)	325 (24)	256 (46)	620 (80)	1853 (189)	45 (15)	331 (75)	3,430 (429)
	金額	1,134	1,890	2,584	9,886	133	4,855	20,482
依頼試験	件数 (実利用者数)	67 (18)	42 (23)	261 (27)	130 (62)	20 (12)	57 (22)	577 (164)
	点数	247	112	642	550	39	135	1,725
	金額	1,159	803	2,256	2,638	353	6,237	13,446
受託研究	件数	0	1	3	3	2	1	10
	金額	0	50	942	1,212	610	500	3,314
研修生受入 人数	企業	0	2	1	5	0	0	8
	学生	0	0	0	1	0	2	3
	インターンシップ	0	0	0	1	0	0	1
計		0	2	1	7	0	2	12
職員派遣研修	件数	0	1	1	0	0	0	2
成果発表会	回数	0	0	0	3	0	0	3
講習会	回数	0	0	3	25	0	0	28
出 展	回数	0	1	3	3	0	9	16
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (3)
	金額	0	0	0	0	0	0	0
事業化・商品化件数		0	1	4	5	0	0	10
実施許諾	件数 (うち新規)	1 (0)	4 (0)	7 (2)	14 (0)	4 (0)	9 (4)	39 (6)
	金額 (うち新規)	12 (0)	15 (0)	637 (0)	1,234 (0)	4 (0)	10,026 (0)	11,928 (0)

##### ※ 地域別区分

- ①岩柳地域  
岩国市、柳井市、周防大島町、  
上関町、田布施町、平生町
- ②周南地域  
下松市、光市、周南市
- ③県央地域  
山口市、防府市
- ④西部地域  
下関市、宇部市、美祢市、山陽小野田市
- ⑤北部地域  
萩市、長門市、阿武町

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目		岩柳地域					周南地域					県央地域				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 （うち訪問等）	254 (7)	390 (32)	419 (23)			384 (20)	594 (154)	520 (100)			776 (28)	898 (37)	899 (58)		
	外部紹介 （うち訪問等）	2 (0)	5 (0)	3 (0)			6 (0)	4 (0)	8 (0)			20 (6)	7 (1)	9 (1)		
計 （実利用者数）		256 (78)	395 (103)	422 (99)			390 (131)	598 (201)	528 (179)			796 (197)	905 (226)	908 (219)		
企業等 訪問件数	件数 （訪問回数）	40 (92)	49 (110)	40 (108)			62 (182)	62 (178)	79 (254)			83 (421)	81 (248)	91 (250)		
	（うち新規） （訪問回数）	(4) (6)	(5) (5)	(4) (8)			(5) (7)	(4) (6)	(9) (10)			(11) (11)	(13) (28)	(12) (22)		
開放機器利用	件数 （実利用者数）	218 (21)	278 (25)	325 (24)			221 (43)	253 (46)	256 (46)			576 (61)	630 (81)	620 (80)		
	金額	528	911	1,134			1,125	1,588	1890			3,219	2,283	2,584		
依頼試験	件数 （実利用者数）	32 (14)	76 (16)	67 (18)			66 (20)	44 (15)	42 (23)			254 (34)	233 (34)	261 (27)		
	点数	74	346	247			286	158	112			759	608	642		
	金額	334	821	1159			975	731	803			2,597	2,099	2,256		
受託研究	件数	0	0	0			0	0	1			3	7	3		
	金額	0	0	0			0	0	50			760	2,557	942		
研修生受入 人数	企業	0	0	0			3	0	2			2	5	1		
	学生	0	0	0			0	0	0			0	0	0		
	インターンシップ	0	0	0			0	0	0			0	0	0		
計		0	0	0			3	0	2			2	5	1		
職員派遣研修	件数	0	0	0			1	1	1			1	1	1		
成果発表会	回数	0	0	0			0	0	0			0	0	0		
講習会	回数	0	0	0			2	0	0			3	15	3		
出展	回数	0	0	0			0	0	1			2	3	3		
共同研究 （資金の受入れが ないもの外数）	件数	0 (2)	0 (1)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)	0 (1)	0 (0)		
	金額	0	0	0			0	0	0			0	0	0		
事業化・商品化件数		2	0	0			1	1	1			1	2	4		
実施許諾	件数 （うち新規）	1 (0)	1 (0)	1 (0)			4 (0)	4 (1)	4 (0)			6 (2)	5 (0)	7 (2)		
	金額 （うち新規）	5 (0)	4 (0)	12 (0)			4 (0)	0 (0)	15 (0)			55 (0)	51 (0)	637 (0)		

注）金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。



地域別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目		西部地域					北部地域					県 外				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 （うち訪問等）	1,799 (39)	1,889 (52)	1,898 (107)			145 (16)	100 (11)	114 (11)			394 (1)	400 (1)	415 (1)		
	外部紹介 （うち訪問等）	28 (0)	26 (0)	13 (1)			1 (0)	3 (0)	0 (0)			6 (0)	8 (0)	3 (0)		
計 （実利用者数）		1,827 (405)	1,915 (489)	1,911 (500)			146 (47)	103 (55)	114 (59)			400 (161)	408 (159)	418 (193)		
企業等 訪問件数	件数 （訪問回数）	165 (902)	172 (704)	209 (767)			29 (57)	27 (68)	28 (87)			52 (119)	30 (49)	85 (126)		
	（うち新規） （訪問回数）	(20) (27)	(23) (32)	(25) (46)			(7) (8)	(6) (6)	(3) (3)			(0) (0)	(0) (0)	(1) (1)		
開放機器利用	件 数 （実利用者数）	1,668 (135)	1,987 (205)	1,853 (189)			38 (8)	33 (16)	45 (15)			357 (72)	384 (77)	331 (75)		
	金 額	8,254	10,570	9,886			74	128	133			7,429	4,598	4,855		
依頼試験	件 数 （実利用者数）	183 (63)	153 (49)	130 (62)			49 (14)	20 (10)	20 (12)			37 (20)	32 (14)	57 (22)		
	点 数	792	867	550			185	48	39			96	110	135		
	金 額	2,893	2,839	2,638			616	290	353			1,425	3,908	6,237		
受託研究	件 数	3	3	3			0	1	2			1	0	1		
	金 額	972	966	1,212			0	274	610			439	0	500		
研修生受入 人 数	企 業	6	5	5			0	0	0			0	0	0		
	学 生	1	1	1			0	0	0			0	1	2		
	インターンシップ	1	1	1			0	0	0			2	1	0		
計		8	7	7			0	0	0			2	2	2		
職員派遣研修	件 数	0	0	0			0	0	0			0	0	0		
成果発表会	回 数	2	3	3			0	0	0			0	0	0		
講習会	回 数	30	10	25			1	0	0			3	0	0		
出 展	回 数	2	2	3			0	0	0			0	6	9		
共同研究 （資金の受入れが ないもの外数）	件 数	2 (4)	1 (8)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (1)			0 (8)	0 (3)	0 (2)		
	金 額	120	100	0			0	0	0			0	0	0		
事業化・商品化件数		6	5	5			0	0	0			0	0	0		
実施許諾	件 数 （うち新規）	13 (2)	14 (1)	14 (0)			3 (1)	4 (1)	4 (0)			5 (0)	5 (1)	9 (4)		
	金 額 （うち新規）	1,404 (0)	1,535 (0)	1,234 (0)			14 (0)	5 (0)	4 (0)			9,743 (0)	10,455 (0)	10,026 (0)		

注）金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別		合 計				
項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 （うち訪問等）	3,752 (111)	4,271 (287)	4,265 (300)		
	外部紹介 （うち訪問等）	63 (6)	53 (1)	36 (2)		
計 （実利用者数）		3,815 (1,019)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)		
企業等 訪問件数	件数 （訪問回数）	431 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)		
	（うち新規） （訪問回数）	(47) (59)	(51) (77)	(54) (90)		
開放機器利用	件 数 （実利用者数）	3,078 (340)	3,565 (450)	3,430 (429)		
	金 額	20,629	20,078	20,482		
依頼試験	件 数 （実利用者数）	621 (165)	558 (138)	577 (164)		
	点 数	2,192	2,137	1,725		
	金 額	8,840	10,688	13,446		
受託研究	件 数	7	11	10		
	金 額	2,171	3,797	3,314		
研修生受入 人 数	企 業	11	10	8		
	学 生	1	2	3		
	インターンシップ	3	2	1		
計		15	14	12		
職員派遣研修	件 数	2	2	2		
成果発表会	回 数	2	3	3		
講習会	回 数	39	25	28		
出 展	回 数	4	11	16		
共同研究 （資金の受入れが ないもの外数）	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)		
	金 額	120	100	0		
事業化・商品化件数		10	8	10		
実施許諾	件 数 （うち新規）	32 (5)	33 (4)	39 (6)		
	金 額 （うち新規）	11,224 (0)	12,048 (0)	11,928 (0)		

注）金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

2 産業分類別企業支援状況 (H28 年度)

産業分類別	技術 相伴 数	企業等 訪問 件数 (回数)	開放機器		依頼試験			受託研究		研 修		共同研究 (資金の受入れがないも の外数)		事業化 ・ 製品化 件数	実施許諾	
			件数	金額	件数	点数	金額	件数	金額	受入研修 (人数)	派遣研修 (件数)	件数	金額		件数 (うち新規)	金額 (うち新規)
食品・飲料関係 (実利用者数)	500 (193)	67 (124)	214 (38)	685	118 (48)	235	1,574	2	156	2	0	0 (0)	0	1	6 (0)	46 (0)
化学・プラスチック関係 (実利用者数)	722 (184)	40 (145)	722 (93)	4,467	53 (19)	233	2,556	1	324	1	0	0 (0)	0	0	1 (1)	0 (0)
窯業・土石関係 (実利用者数)	86 (32)	15 (38)	89 (9)	498	6 (3)	13	104	0	0	0	0	0 (0)	0	0	2 (0)	0 (0)
鉄鋼・金属関係 (実利用者数)	695 (114)	44 (162)	684 (40)	3,368	225 (18)	653	3,734	2	1,023	0	2	0 (0)	0	2	9 (2)	11,090 (0)
機械関係 (実利用者数)	711 (200)	67 (218)	476 (71)	3,882	63 (17)	306	2,239	2	234	1	0	0 (0)	0	3	7 (0)	149 (0)
電気・情報通信関係 (実利用者数)	323 (91)	21 (27)	329 (44)	1,753	8 (7)	23	508	1	500	0	0	0 (0)	0	1	0 (0)	0 (0)
その他製品 (実利用者数)	800 (281)	157 (334)	460 (72)	3,031	44 (28)	90	947	1	500	4	0	0 (0)	0	3	14 (3)	643 (0)
建設業 (実利用者数)	109 (31)	12 (39)	44 (6)	979	37 (10)	115	424	1	576	0	0	0 (1)	0	0	0 (0)	0 (0)
公的機関・団体・大学・高専・個人 (実利用者数)	355 (123)	109 (505)	412 (56)	1,819	23 (14)	57	1,360	0	0	4	0	0 (2)	0	0	0 (0)	0 (0)
合 計 (実利用者数)	4,301 (1,249)	532 (1,592)	3,430 (429)	20,482	577 (164)	1,725	13,446	10	3,313	12	2	0 (3)	0	10	39 (6)	11,928 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

同一企業であっても、異なる地域に複数の事業所がある場合、地域別支援状況と件数で差異が生じる場合があります。

企業等訪問件数については、( )内は訪問回数の合計です。

産業分類別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目	食品・飲料関係					化学・プラスチック関係					窯業・土石関係				
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
技術相談件数 (実利用者数)	444 (182)	551 (182)	500 (193)			690 (139)	696 (151)	722 (184)			96 (32)	79 (28)	86 (32)		
企業訪問件数 (訪問回数)	74 (107)	59 (103)	67 (124)			46 (160)	52 (150)	40 (145)			19 (37)	12 (38)	15 (38)		
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	229 (42)	287 (41)	214 (38)			639 (57)	770 (80)	722 (93)			54 (10)	64 (12)	89 (9)	
	金 額	540	685	685			7,904	4,253	4,467			145	226	498	
依頼試験	件 数 (実利用者数)	106 (53)	124 (41)	118 (48)			55 (14)	35 (10)	53 (19)			7 (4)	3 (3)	6 (3)	
	点 数	252	240	235			298	489	233			26	5	13	
	金 額	1,555	1,381	1,574			1,117	1,309	2,556			90	29	104	
受託研究	件 数	1	0	2			2	4	1			1	1	0	
	金 額	47	0	156			499	1,368	324			172	274	0	
研 修	受入人数	2	3	2			3	1	1			0	0	0	
	派遣件数	0	0	0			0	0	0			0	0	0	
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (2)	0 (2)	0 (0)			0 (2)	1 (1)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	金 額	0	0	0			0	100	0			0	0	0	
事業化・商品化件数	1	0	1			0	2	0			2	0	0		
実施許諾	件 数 (うち新規)	6 (0)	6 (0)	6 (0)			0 (0)	0 (0)	1 (1)			2 (0)	2 (0)	2 (0)	
	金 額 (うち新規)	42 (0)	40 (0)	46 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数（機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業）あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目		鉄鋼・金属関係					機械関係					電気・情報通信関係				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		543 (96)	653 (115)	695 (114)			627 (162)	689 (195)	711 (200)			240 (57)	325 (92)	323 (91)		
企業訪問件数 (訪問回数)		40 (118)	38 (111)	44 (162)			51 (178)	45 (150)	67 (218)			22 (36)	23 (43)	21 (27)		
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	488 (38)	632 (43)	684 (40)			414 (53)	536 (76)	476 (71)			404 (50)	307 (47)	329 (44)		
	金 額	2,936	3,380	3,368			1,837	3,444	3,882			3,251	2,366	1,753		
依頼試験	件 数 (実利用者数)	175 (11)	183 (11)	225 (18)			70 (22)	57 (17)	63 (17)			8 (5)	6 (4)	8 (7)		
	点 数	542	505	653			388	491	306			8	6	23		
	金 額	1,382	1,387	3,734			1,419	998	2,239			493	2,829	508		
受託研究	件 数	2	4	2			0	2	2			0	0	1		
	金 額	1,014	1,605	1,023			0	550	234			0	0	500		
研 修	受入人数	3	2	0			1	2	1			0	0	0		
	派遣件数	2	2	2			0	0	0			0	0	0		
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (3)	0 (5)	0 (0)			0 (2)	0 (0)	0 (0)			0 (2)	0 (4)	0 (0)		
	金 額	120	0	0			0	0	0			0	0	0		
事業化・商品化件数		1	1	2			2	0	3			1	4	1		
実施許諾	件 数 (うち新規)	7 (1)	7 (1)	9 (2)			6 (0)	7 (1)	7 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	金 額 (うち新規)	10,970 (0)	11,976 (0)	11,090 (0)			170 (0)	0 (0)	149 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)		

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数（機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業）あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目	その他の製品					建設業					公的機関・団体・大学・高専・個人				
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)	670 (200)	753 (268)	800 (281)			179 (40)	180 (39)	109 (31)			326 (104)	398 (163)	355 (123)		
企業訪問件数 (訪問回数)	88 (248)	102 (245)	157 (334)			8 (18)	10 (42)	12 (39)			81 (871)	80 (475)	109 (505)		
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	463 (62)	539 (85)	460 (72)			21 (5)	51 (9)	44 (6)			366 (27)	379 (57)	412 (56)	
	金 額	1,949	3,280	3,031			74	170	979			1,993	2,274	1,819	
依頼試験	件 数 (実利用者数)	53 (29)	7 (6)	44 (28)			117 (17)	96 (14)	37 (10)			30 (10)	47 (32)	23 (14)	
	点 数	181	12	90			428	284	115			69	105	57	
	金 額	1,164	450	947			929	743	424			691	1,562	1,360	
受託研究	件 数	0	0	1			1	0	1			0	0	0	
	金 額	0	0	500			439	0	576			0	0	0	
研 修	受入人数	0	1	4			1	1	0			1	2	4	
	派遣件数	0	0	0			0	0	0			0	0	0	
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (1)			0 (3)	0 (1)	0 (2)	
	金 額	0	0	0			0	0	0			0	0	0	
事業化・商品化件数	2	0	3			0	1	0			1	0	0		
実施許諾	件 数 (うち新規)	11 (4)	11 (2)	14 (3)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	金 額 (うち新規)	42 (0)	33 (0)	643 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)			0 (0)	0 (0)	0 (0)	

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

産業分類別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別 項 目		合 計				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		3,815 (1,012)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)		
企業訪問件数 (訪問回数)		429 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)		
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (344)	3,565 (450)	3,430 (429)		
	金 額	20,629	20,078	20,482		
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)	558 (138)	577 (164)		
	点 数	2,192	2,137	1,725		
	金 額	8,840	10,688	13,446		
受託研究	件 数	7	11	10		
	金 額	2,171	3,797	3,313		
研 修	受入人数	11	12	12		
	派遣件数	2	2	2		
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)		
	金 額	120	100	0		
事業化・商品化件数		10	8	10		
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)	33 (4)	39 (6)		
	金 額 (うち新規)	11,224 (0)	12,049 (0)	11,928 (0)		

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数（機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業）あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

3 施設利用（H26年度～30年度）

項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
施 設 利 用	多目的ホール	件 数	24	29	26	
		利用人数	2,570	2,526	2,437	
		金 額	319,555	287,040	286,920	
	第一研修室	件 数	21	27	30	
		利用人数	633	675	877	
		金 額	53,820	76,780	72,080	
	第二研修室	件 数	12	5	12	
		利用人数	289	135	276	
		金 額	33,540	15,020	25,260	
	第一会議室	件 数	23	17	※6	
		利用人数	300	252	※72	
		金 額	40,440	24,880	※6,380	
第二会議室	件 数	21	25	23		
	利用人数	424	462	371		
	金 額	35,960	37,720	33,100		
施 設 見 学	企業・産業関係団体	件 数	19	12	8	
		利用人数	221	125	126	
	研究者	件 数	2	3	5	
		利用人数	9	11	20	
	学生・生徒	件 数	8	14	13	
		利用人数	463	520	525	
	その他	件 数	12	10	6	
		利用人数	60	124	35	

注) 施設利用は有料のものをカウントしています。

※9月～改修工事のため、使用停止。



4 財務関係

(1) 資産、負債

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
資産 A	6,198,714	6,102,051	5,832,824			
固定資産	6,024,796	5,847,703	5,666,372			
流動資産	173,918	254,348	166,451			
負債 B	380,444	402,832	283,740			
固定負債	304,585	228,800	189,017			
流動負債	75,859	174,032	94,723			
資本 C	5,818,270	5,699,220	5,549,084			
資本金	6,375,046	6,375,046	6,375,046			
資本剰余金	△ 655,031	△ 756,317	△ 897,864			
うち損益外減価償却費累計額 (-)	△ 823,688	△ 984,649	△ 1,157,576			
利益剰余金	98,255	80,490	71,902			
前中期目標期間繰越積立金	77,121	38,201	13,102			
研究・業務運営充実積立金	0	21,134	42,040			
当期未処分利益	21,134	21,155	16,760			
その他有価証券評価差額金	-	-	-			
負債資本合計 D = B + C	6,198,714	6,102,051	5,832,824			

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (2) 損益計算書

(千円)

項 目	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	備考
経常経費 A	836,127	965,923	948,043			
業務費	836,127	965,923	948,043			
業務費	271,537	309,856	330,161			
役員人件費	13,370	13,539	13,660			
職員人件費	435,299	524,100	478,438			
管理運営費	115,922	118,429	125,784			
財務費用	-	-	-			
雑損	-	-	-			
経常収益 B	855,517	981,823	948,864			
運営費交付金収益	566,665	662,857	614,451			
使用料・手数料収益	36,465	38,292	38,221			
特許実施料	11,224	12,048	11,928			
受託事業等収益	115,291	107,211	105,497			
補助金等収益	36,082	52,303	82,967			
施設費収益	0	0	4,047			
その他収益	1,204	960	936			
資産見返運営費交付金等戻入	88,588	108,152	90,818			
経常利益 C = B - A	19,390	15,900	821			
臨時損失 D	139,267	0	0			
臨時利益 E	139,611	12	16			
当期純利益 F = C - D + E	19,734	15,912	837			
目的別積立金取崩額 G	1,400	5,243	15,923			
当期総利益 H = F + G	21,134	21,155	16,760			

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (3) キャッシュ・フロー計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務活動によるキャッシュ・フロー A	168,789	78,637	△ 99,697			
投資活動によるキャッシュ・フロー B	△ 155,232	△ 13,127	△ 24,674			
財務活動によるキャッシュ・フロー C	-	-	-			
資金に係る換算差額 D	-	-	-			
資金増加額 E = A+B+C+D	13,557	65,511	△ 124,371			
資金期首残高 F	88,805	102,362	167,873			
資金期末残高 G	102,362	167,873	43,502			

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (4) 行政サービス実施コスト計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務費用 A	804,407	799,168	788,701			
損益計算書上の費用	975,394	965,923	948,043			
(控除) 自己収入等	△ 170,988	△ 166,755	△ 159,342			
損益外減価償却相当額 B	154,132	160,962	172,926			
損益外減損損失相当額 C	-	-	-			
引当外賞与増加見積額 D	535	△ 318	238			
引当外退職金給付増加見積額 E	△ 2,670	36,869	△ 12,621			
機会費用 F	49,447	16,609	376,314			
(控除) 設立団体納額 G	-	-	-			
行政サービス実施コスト F = A+B+C+D+E+F-G	1,005,851	1,013,290	1,325,559			

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

5 組織関係

(1) 役職員数

(人)

年度 区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	備考
常勤役員数	2	2	2			
非常勤役員数	1	1	1			
常勤職員数	47	48	48			
非常勤職員数	26	24	25			

(2) 役員の状況

氏名	役職名	任期	任期途中の異動の有無	備考
木村悦博	理事長	H28.4.1 ~ H29.3.31	有	前理事長、任期途中退任 (H27.4.1~H28.3.31) のため
小泉良	副理事長	H27.4.1 ~ H29.3.31	無	
河口雅邦	監事	H27.4.1 ~ H29.3.31	無	非常勤

6 主要な設備等の状況

種類	構造	床面積 (m <sup>2</sup> )	築年度	経過年度	備考
事務室・実験室	鉄筋コンクリート造陸屋根、ステンレス鋼板葺地下1階付4階建	15,712.67	H11年度	17年	
実験室・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階建	157.56	H11年度	17年	
車庫・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	73.22	H11年度	17年	
新事業創造支援センター	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	891.00	H16年度	12年	

7 その他の評価結果等の活用状況

評価等実施機関の名称	評価結果等の確定	指摘事項等	指摘事項への対応策
H25年度包括外部監査	一点指摘事項あり	「固定資産貸付要項」第1号様式「固定資産使用申込書」には、「減免を受けようとする場合はその理由」を記載する欄が設けられているが、記載されていないケースが散見された。申込書を別途様式で行うか等を検討して、ルールの徹底を図ること。	申込書の様式変更は行わないが、申請者に対してルールを徹底することとした。また、H26年度の申込に当たり、減免理由を記載するよう通知文書により周知徹底を図った。

8 その他法人の現況に関する重要事項

該当なし。